

知的障害教育課程 高等部

高等部 2 年 特別活動「道徳を学ぶ時間」 学習指導略案

1. 主題名 命の大切さ
資料名「とべないほたる 1」（絵本）出典：ハート出版「ほたるたちのたんじょう」
2. 主題設定の理由
本主題は、「生命を尊重する態度を養う」ことをねらいとしている。これは、動植物に限らず生命あるもの全てをかけがえのないものとして尊重し、大切にする児童生徒を育てようとするものである。
3. ねらい 自他の生命を尊重し、他を思いやる心を育てる。

4. 指導の展開

	学習活動	教師の支援
5 分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動植物を飼ったり、育てたりした経験を話し合う。 ○ その後「ホタル」の写真を見せて感じたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に生き物は存在していることを感じとることができるように話題を向ける。 ・ホタルの写真を見ることで、絵本への興味・関心を高めたり、イメージをわかせたりする。
20 分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本の読み聞かせ ○ 心に残った場面や、気づいたこと感想等を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・他のホタルが生まれてすぐに飛んでいるのを見て、飛べないホタルはどんな気持ちだったか。 ・飛べないホタルに対してみんなはどんなことを思ったか。 ・子どもに捕まりそうになった時に、代わりに捕まってくれたことを飛べないホタルはどのように感じたか、またどのような気持ちだったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーの理解がすすむように、生徒の様子を見ながら、ゆっくりと読むようにして、声の大きさを変えたり絵本の提示のし方を工夫する。 ・いろいろなとらえ方や感じ方があることに気付かせ、「みんな違っていい」ということを伝えるようにする。 ・自分だけが周囲と違っている時に嫌な気持ちを感じた経験は誰にでもあることに気づくような発問をする。 ・飛べないホタルをみんなは応援していたことに気づくことができるように発問を工夫する。 ・相手を思いやる気持ちや命の尊さに気づくことができるように、ポイントとなる文をくり返し読んだり、自分のことに置き換えて考えることができるような助言を個々の生徒に応じて行うようにする。
15 分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の思ったことを書いてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が思ったことをまとめようとせずに、感じたことや気づいたことを素直にそのまま紙に書くようにアドバイスする。

○評価 命あるものを大切にし、他を思いやる気持ちをもつことができたか。

※子どもの発言記録を作成し、授業のまとめを行う。

高等部3年 総合的な学習の学習（将来学習）指導案

1 題材名 「公共の場のマナーを覚えよう」

2 題材について

本題材は、将来健康で自立した生活を送るために、公共の場での正しいマナーを知り、集団や社会の一員として、自分の役割や行動について考え、適切に行動する力を身につけていこうとするものである。

〈これまでの学習を通して〉

総合的な学習の時間（将来学習）では、生徒の様子に合わせて4つのグループに分かれて学習している。「異性とのつきあい方」についての学習では、「異性の体にべたべたとさわる」「しつこく遊びに誘う」「夜遅い時間に何度も電話をかける」などの場面を設定し、教師がロールプレイングを行い、その場面ではいけない行為や、その行為への対処について学習した。ロールプレイングを見ることで、具体的なイメージがもて、「周りから見たら嫌だな」、「相手がかawaiiそう」と客観的視点に立った意見が出てきた。これまでの学習を通して、他人との距離や接し方について気をつけたり、他人の不適切な行為に対して注意をしたりするなど、対人関係のマナーを守ろうとする生徒が増えてきた。

一方で、自分勝手な行動をしていてもそれに気づかなかったり、自分のことだけを考えてルールを守れなかつたりすることもまだ見られる。みんなが気持ちよく生活するために、公共のマナーを知り、社会の一員であるという自覚をもち、適切に公共の場を利用していく力を身につけてほしい。

〈身近な公共機関のマナーを知ろう〉

1, 2グループに所属する生徒は、学園生2名を除き、全員が自宅から自力で通学している。そのうち、2名は自宅から徒歩で通学し、11名は電車やバスなどの公共の交通機関を利用して通学している。1, 2グループの生徒の多くは同じ電車に乗り、友だちと一緒に通学しているため、1, 2グループ合同で授業を展開する。電車内での自分の行動を振り返り、車内での迷惑行為について、お互いが問題意識をもち、正しい行動を選択できるようにしたい。電車内のイメージをつかむために、教室に電車の座席やつり革を設置し、様々な迷惑行為を教師がロールプレイングをして再現する。迷惑行為の内容は、「隣の座席に荷物をおく」「大きな声で話す」「電車にごみを置いていく」「車内で足を広げて座る、あぐらをかく」など、一つひとつの場面を設定し、第三者から見た際の不快感を視覚的にとらえられるようにする。

また、公共の場とはどういう場所なのか、生徒が身近で利用する「道路」「レストラン」「バス」「旅館」などの公共機関について、具体的に例を提示し、誰もが気持ちよく利用するために、それぞれの場所で必要なルールやマナーがあることを伝えていく。

〈グループワークで意見交換〉

生徒一人ひとりが、公共のマナーについて問題意識をもち、主体的に取り組むために、3, 4人程度の小グループに分かれて意見交換をしながら、課題を進めていく。グループごとに、ワークシートを使い、様々な公共機関のマナーを考えたり、電車内の迷惑行為のランキングを作ったりして発表する。友だちの意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりして、楽しみながらワークシートを完成させ、公共のマナーについて興味関心を高められるようにする。

〈今後の生活に活かして〉

実際に駅に貼られているマナーのポスターを活用し、そのポスターが貼られている場所を写真で伝え、ポスターが伝えたいことについてみんな考えていく。駅を利用する際に生徒自身がそのポスターに気づき、学習したことを思い出し、気をつけていこうという意識をもてるようにする。また、グループワークで作成した、様々な公共の場でのマナーや迷惑行為ランキングを模造紙に貼り、ろうかに掲示して、授業後も多くの生徒がそれを見て振り返ることができるようにしていく。

3 総合的な学習の時間（将来学習）の目標

- 身だしなみを整える方法や異性との適切な接し方を知り、自分自身を振り返りながら、自ら整えたり、正したりしていく力を身につける。
- 公共の場でのルールやマナーを知り、自ら進んで守り、正しく利用する力を身につける。

4 総合的な学習の時間（将来学習）の計画

①指導について

○自ら主体的、意欲的に学習するために

- ・「公共のマナーについて」「異性とのつきあい方」の学習では、異性との不適切な接し方やマナー違反であるいくつかの場面を教師が劇にして演じ、他者から見て不快感があるとイメージしやすくする。
- ・電車内をイメージできるように、つり革や座席を用意したり、車内の写真を掲示したりする。
- ・駅や公共の場に貼られているポスターなど、身近に目にするものを提示し、そのポスターの意味を考えられるようにする。
- ・手洗いや歯磨き、挨拶などは、教師が手本を示し、それを見て実際に行うようにしたり、写真入りの手順表などを用意したりする。
- ・ビデオやパワーポイントなど、生徒が注目しやすい視覚教材を使用する。

○仲間とともに活動しようとする気持ちを育むために

- ・4人程度の小グループを作り、友だちと意見交換をしたり、相談したりしながらワークシートを完成させる学習を取り入れる。
- ・グループワークで作成したものは、グループ全員で発表するようにし、相談して分担を決めたり、発表の仕方を考えたりする。
- ・異性との接し方の学習では、友だちとペアになり、適切な距離を確認したり、友だちからの誘いを断る練習をしたりして、友だちとコミュニケーションを取りながら活動する。
- ・挨拶や身だしなみの学習では、自分でチェックするだけでなく、友だちの様子についても相互評価し、発表し合うようにする。

○実際の生活に活かすために

- ・生活の中で、その時期に合った題材を取り上げ、繰り返し学習できるようにする。
- ・○×でチェックできる自己チェックシートを毎回活用し、身だしなみや対人マナー、公共のマナーについて、自分で振り返るようにする。
- ・自分の行動や身だしなみが正しいかどうか、題材に合わせて毎回ワークシートを使って振り返り、自分の課題点に気づいたり、正したりできるようにする。
- ・生徒が普段利用する駅に貼ってあるポスターを活用して、貼ってある場所や意味を確認して、実際の生活の中で、マナーを意識できるようにする。
- ・グループワークで作成したものを、普段生徒が目にする場所へ掲示し、学習後もそれを見ながら振り返ることができるようにする。

②年間計画

月／日	曜	学習内容
4／24	水	衛生・身だしなみ
6／26	水	男女の違い、異性とのつきあい方について
9／18	水	自分より小さい子に対する接し方
10／30	水	災害から身を守る
本時→ 11／20	水	公共の場のマナーについて
12／11	水	正しい清掃の仕方
1／22	火	病気の予防
2／19	水	命の大切さについて
3／5	水	一年間のまとめ

5 本時の計画

①目標

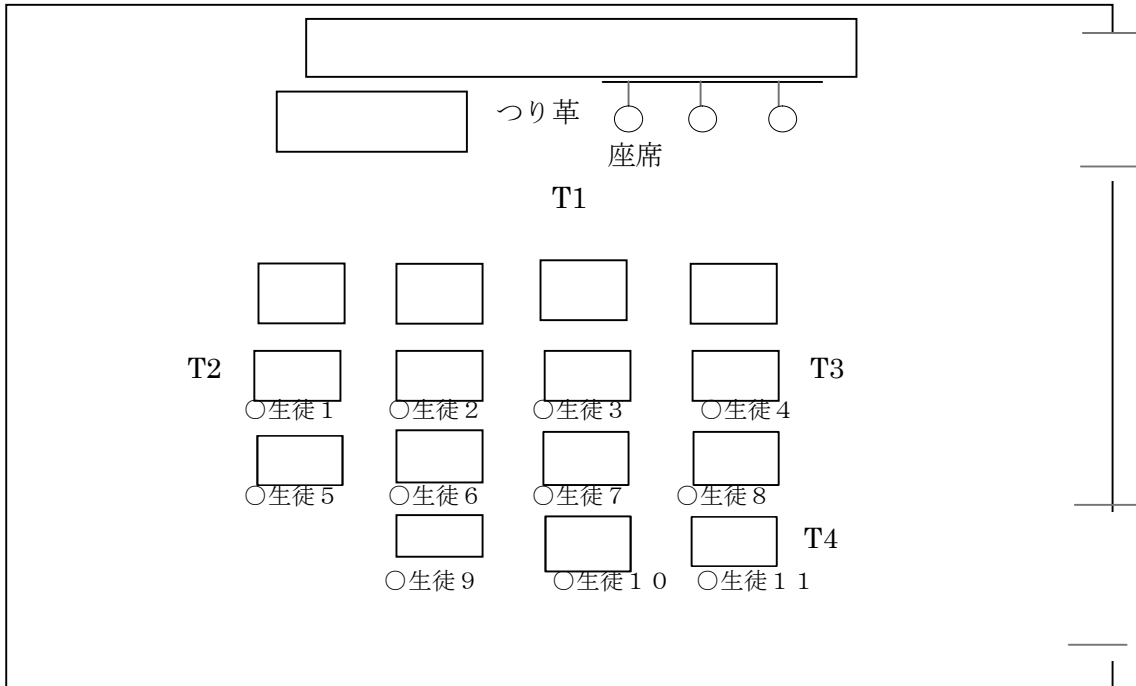
○公共の場を理解し、それぞれの場所に合ったマナーを覚える。

②展開

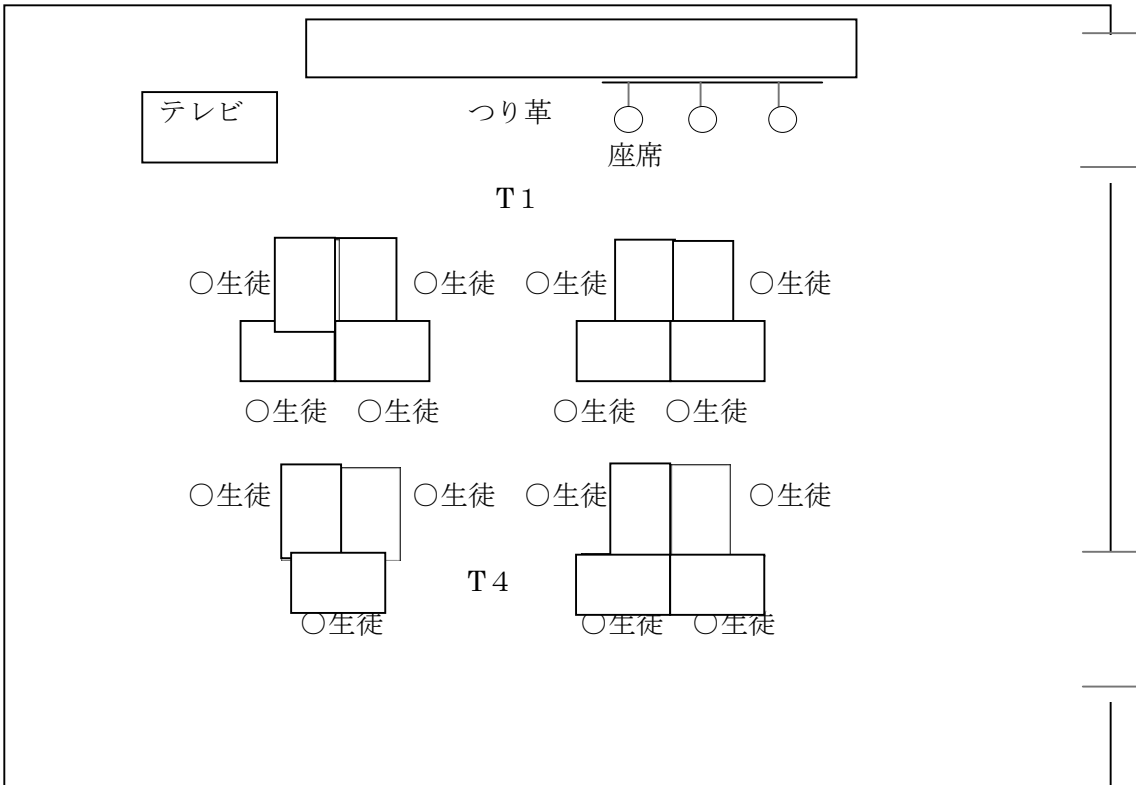
時配	生徒の活動	手だて	道具等
2分	○本時の学習内容を知る。 ・「公共の場でのマナーについて」というテーマを全員で声に出して読む。	・本時の学習テーマを大きく画面に映す。	大型テレビ パソコン
5分	○公共の場とはどんな場所かを知る ・「公共の場」と聞いて思いつく場所を発表する。 ・スライドを見て、どういう場所が公共の場なのかを確認する。 ・公共の場とは「みんなが行ってもいい場所、みんなが使う場所」であることを確認する。	・公共の場とはどんな場所か質問する。 ・「公園」「図書館」「お店」「道」「電車・バス」「レストラン」など、具体的な場所の写真やイラストなどを提示する。 ・具体的な場所を提示しながら、それがどんな場所なのか、生徒の意見を引き出しながら伝えていく。	イラスト 写真
45分	○電車内のマナーについて考える ・グループに分かれて座る。 ・車内の迷惑行為についての劇を見て、どこがいけないかを考える。 （「座席に荷物を置く」「大声で話す」「携帯電話を使う」「電車内で食べる」「足を伸ばしたり広げてたりして座席に座る」「車内で靴下を脱ぐ」「いちゃいちゃする」などの場面） ・グループごとに、電車での迷惑行為について話し合い、「迷惑行為ランキング」を作る。 ・ランキングの上位5つをグループごとに発表する。 ・好ましい乗車態度や行為を考える。 ・席を譲る行為を実際に行う。	・座席やつり革など、電車内をイメージした具体物を設置する。 ・それぞれの場面ごとに何がいけない行為か、どうすればよいのか改善点も質問する。 ・生徒の発表を受けて、改善された場面も演じ、誰もが気持ちよく利用できている場面を確認する。 ・車内の迷惑行為についてまとめたプリントや、ランキング記入表を配布する。 ・プリントには迷惑行為のイラストと文を載せ、みんなで一度読み、内容を確認してから、作業に入るようにする。 ・どうしてその行為が嫌なのか、理由も考えるように伝える。 ・各グループが作成したランキング表を並べて黒板に貼り、各グループを比較できるようにする。 ・ランキングの上位で各グループが共通する内容は赤でラインを引いて、わかりやすくして確認する。 ・「電車で座っていたら、妊婦さんが乗ってきた」という場面を演じ、どのようにすれば良いのか質問する。 ・席の譲り方について、どのように言えばいいのか手本を示し、何名か指名する。	つり革 椅子3脚 劇小道具 （バッグ、携帯電話、食べ物セット） プリント ランキング表 赤マーカー

10分	<p>○原木中山駅のポスターを見て、ポスターが伝えたい内容を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターが示す意味をグループごとに考え、発表する。 <p>(ポスターの内容「駆け込み乗車しない」「携帯の電源をオフにする」「大きな荷物は体の前に持つ」「妊婦さんに席を譲る」)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数種類のポスターを用意し、ポスターが原木中山駅のどこに貼ってあるのか、実際に貼ってある場所の写真を提示する。 ・どのような場面を描いているポスターなのか、ポイントとなる部分を伝える。 ・ポスターにマナーを書きこむ場所を作り、直接ポスターにマナーを書きこむように伝える。 	<p>ポスター</p> <p>黒マジック</p>
10分	<p>○いろいろな公共の場についてマナーを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「バス」「道路」「レストラン」「旅館・ホテル」の4つの場所でのマナーについて、グループごとに話し合う。 ・考えたことをワークシートに記入し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場所の利用のポイントをワークシートに載せておく。 ・場所のポイントを全員で確認し、どのように使えば、みんなが気持ちよく使えるのかを考えるように伝える。 ・各グループに教師が入り、意見が出やすいように助言したり、意見をまとめたりする。 	<p>ワークシート</p>
8分	<p>○公共のマナーの掲示物を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループが作成した公共のマナーのワークシートを模造紙に貼る。 ・電車のマナーについてのポスターを模造紙に貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに作成する分担を決めて取り組む。 ・模造紙に貼る位置など、レイアウトを伝える。 	<p>のり</p> <p>模造紙</p>
10分	<p>○本時に学んだことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己チェックシートを使い、現在の自分のマナーを振り返る。 <p>・振り返りシートを使い、本時に学習した内容を振り返ったり、今後公共機関を利用する際に気をつけたいことを記入したりして、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己チェックシートは、○×で記述するものを中心にし、自分がよく守れているマナーや、守れていないマナーについて確認できるようにする。 ・本時に学習した駅のポスターの絵や写真をワークシートに載せ、守るべきマナーを書き込めるようにする。 ・「今後気をつけたいこと」の項目では、自分で記入した自己チェックシートをもとに記述するようにする。 ・一人ひとりの振り返りの内容を評価する。 	<p>自己チェックシート</p> <p>振り返りシート</p>

③場の配置

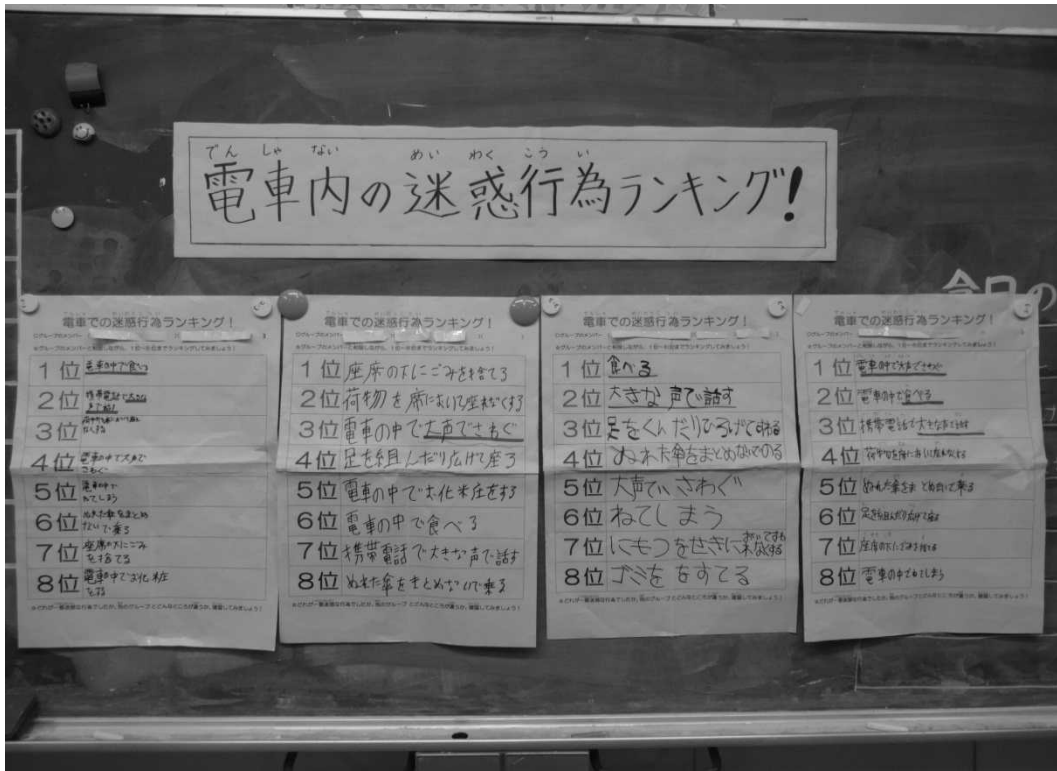


〈グループ学習時〉

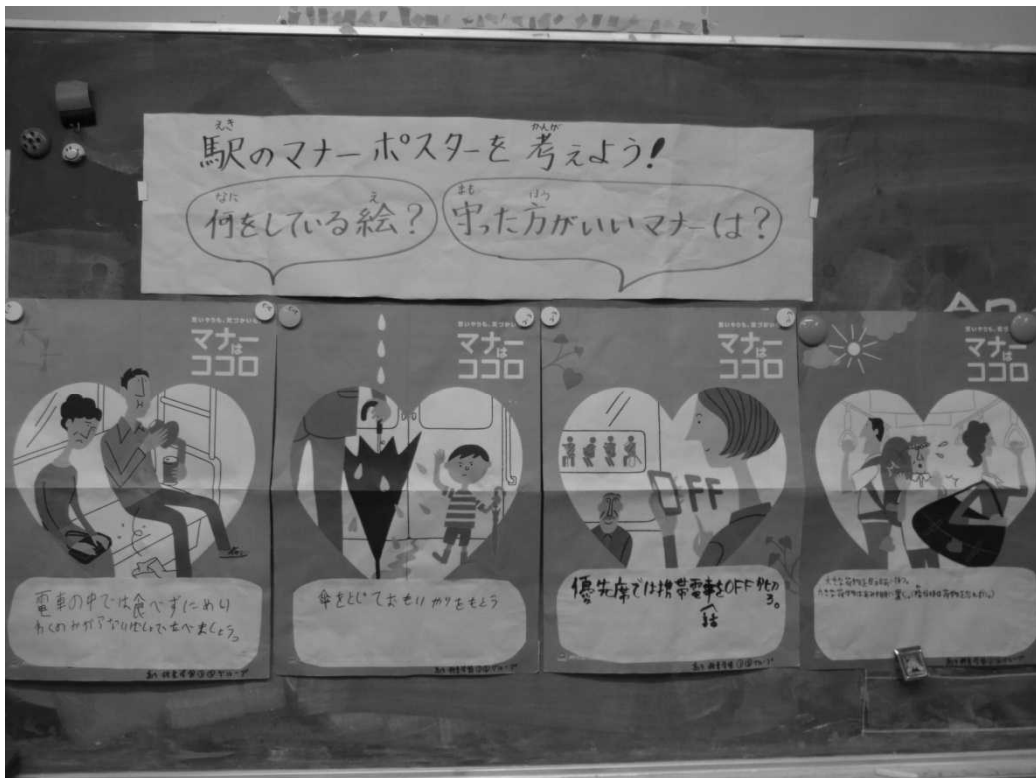


④板書計画

〈迷惑行為ランキングを作ろう〉



〈電車のマナーポスターを考えよう〉



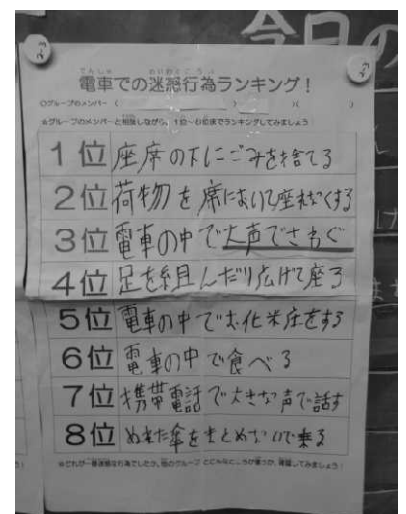
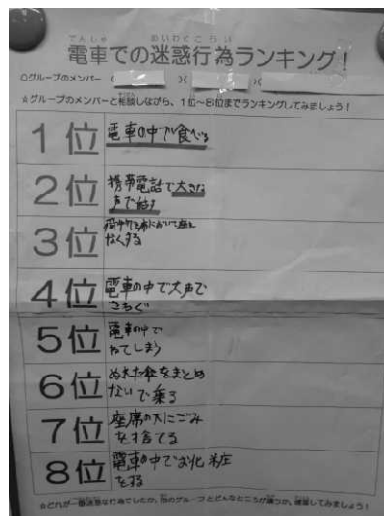
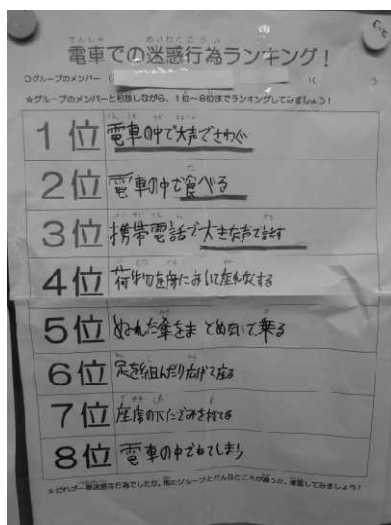
2 考察～授業を終えて～

〈教材について〉

- ・電車という公共交通機関は、生徒が毎日通学で利用したり、休みの日に余暇で利用したりすることが多く、電車の中で目にする様々な迷惑行為について、「見たことがある」「この前、こんな人がいた」など、身近に感じられ、イメージがもちやすかった。
- ・絵や写真だけでなく、動きを伴ったロールプレイングを見ることで、よりイメージがしやすく、どの行為が迷惑行為になるのか、周りの人はどう感じるのかを捉えやすかった。
- ・駅のポスターの活用については、実際に貼ってある場所の写真を見て、「あそこにあったのか」「貼ってあるのを知ってた」等の声があがった。普段駅で目にしているものへの関心度もわかった。実際に貼ってあるポスターを使用することで、今後もどんなポスターが駅に貼られるのか、関心をもつ生徒も見られ、下校時に駅で確認する生徒もいた。(マナーポスターは2か月に1回程度変わる)

〈道徳的価値について〉

- ・「迷惑行為ランキング」について、グループごとに相談し、自分にとってそれほど迷惑と感じていなかったことも、他の友達是非常に迷惑と感じているなど、自分と違う考えをもつ人がいることを理解し、受け入れていくことができた。一方で、意見の相違からなかなかランキングをまとめることができなかつたグループもあった。リーダーが中心となり、意見の違うものを2択にしてまとめたりしていた。
- ・ランキングは「絶対にこれが1位、これが2位！」という正解のあるものではないので、生徒一人ひとりがよく考え、意見を伝え合い、グループごとに発表して、他者との違いを理解しながら深めていくことに道徳的な意義がある。
- ・電車での迷惑行為は「利用する人の気持ち」「周りの人の気持ち」を考えることが大切である。「迷惑行為をされたらどのような気持ちになるのか」を重点的に、もう少し生徒と考え、マナーやルールをまとめていくことができるとよかった。
- ・マナーやルールを初めから前面に出すのではなく、生徒が「これはいやだな」「もっとこうしたらいいのに」と感じ取って、考えられる提示の仕方を大切にしたい。迷惑行為のロールプレイングで、迷惑行為の内容をはっきりと行動にして伝えたり、登場人物の気持ちを一緒に考えたりすることで、より主体的に学ぶことができる。



高等部 道德教育 学習指導略案

1 題材名 ハイイツの物語【心の停留所】版

2 展開例

	学習活動と主な発問など
導入 3分	1. 学習のめあて 「登場人物の立場を考えて、主人公は正しかったか考えよう。」
展開 35分	<p>2. 資料を教師が読む。</p> <p>3. 状況の把握をする。</p> <p>ア) 登場人物の確認</p> <p>イ) ハイイツのおかれた状況を把握する。</p> <p>ウ) 葛藤状況を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬がなければ奥さんは死んでしまう。 ・盗むことは犯罪だ。 <p>4. ワークシートの心の停留所1に停留所を書き、その理由を自分の意見1に書く。</p> <p><板書></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>ハイイツの物語 「登場人物の立場を考えて、主人公は正しかったか考えよう。」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px 15px;">正しかった</div> <div style="flex-grow: 1; border-bottom: 1px solid black; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: -5px; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 2px; height: 20px;"></div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px 15px;">正しくなかった</div> </div> </div> <p>5. 黒板の図にそれぞれ心の停留所を貼る。</p> <p>6. 座席を変更して向き合い、討論する。</p> <p>「正しかった」派と「正しくなかった」派それぞれの意見（理由）を出し合う。 どちらかが極端に少なかった場合は教師が入る。</p> <p>7. 討論後に感じたことを、自分の意見2に書く。</p> <p>8. ワークシートの心の停留所2に再度停留所を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> *停留所は位置が変わっても変わらなくてもよい。 *オープンエンド、結論は出さない。 <p>9. 黒板の停留所を移動する。</p>
まとめ 7分	<p>10. 自己評価 今日のこのお話について、自分なりにしっかり意見をもてたか4段階で評価し、ワークシートの自分の発見の□に記入する。</p> <p>11. 討論した時の友だちの意見などを聞いて、友だちについて思ったことを仲間の発見に書く。</p> <p>Ex)・そんな風に考えるタイプだと思ってなかった。(新たな面の発見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盗むことが正しいという人がいると思わなかった。(世界観の広がり)

『ハインツの物語』

(作 コールバーグ)

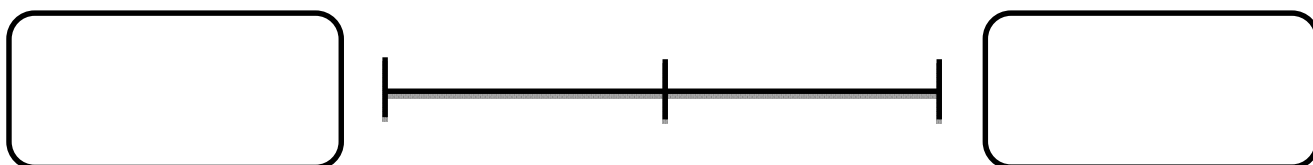
ヨーロッパの物語だが、一人の女性が特殊なタイプのガンで死に瀕していた。医師が彼女を救うことが出来るかもしれないと考えた薬が一つだけあった。それはウラジウム的一种で、同じ町に住む薬剤師が最近発見したものであった。その薬を作るのに多額の費用を要したのは確かであるが、薬剤師は薬を作るのに要した費用の10倍もの値段をつけていた。すなわち、ウラジウムの購入には200ドル支払っただけなのに、ほんの微量の薬に2000ドルの値段をつけていたのである。患者の夫であるハインツは、金を借りようとして、知るかぎりのところを訪ねたのであるが、あっちこっちから借りた金を全部集めても、1000ドルにしかならなかった。薬を購入するのに必要なお金の半分の額である。ハインツは薬剤師に向かって、自分の妻が危篤であることを告げ、薬を安く譲ってくれるか、それが出来ないというのなら支払いを少しのばしてもらえないだろうかと頼んだ。ところが薬剤師は「だめですよ。あれは私が見つけた薬です。私はあの薬でひと財産を作りたいと思っていますんですよ。」と言うのだった。

ハインツは思いつめ、薬剤師の店に押し入り、妻のために薬を盗んだ。

【ワークシート】

___月 ___日 道徳 ___年 ___組 氏名 _____

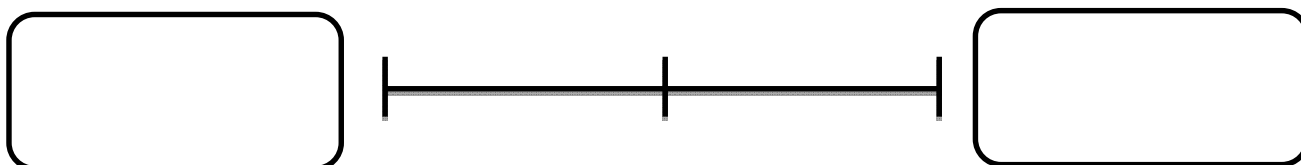
1. 心の停留所 1



2. 自分の意見 1

3. 自分の意見 2

4. 心の停留所 2



自分の発見

仲間の発見

高等部 道德教育 学習指導略案

- 1 題材名 ・「家族の方へメッセージカードを書こう。」
- 2 目的 ・自分の名前には家族の思いが込められていることを知る。
 ・日頃からお世話になっている家族の方へ感謝の気持ちを抱く。
 ・日頃からお世話になっている家族の方へメッセージカードを作成する。

3 展開（1時間目 / 2時間扱い）

時 配	学 習 内 容	備 考
	<p>○学習内容を知る。 「生まれてきたときの家族の想いを知ろう」</p> <p>○詩を読み上げ、学習内容を深められるようにする。</p> <p>詩 聞こえてくる 脈を打つ 私の心臓の音が 聞こえてくる 呼吸する 君の息づかいが わたしたちは だれも 覚えていないけれど あのと き あ の瞬間から 生きているんだね た く さ ん の 愛 に 見守られて 支えられて そ して い ま こ の瞬間も か け が え の な い こ の命を 生きているんだ</p> <p>○自分（赤ちゃん）が生まれてくるまでを知りワークシートに記入する。 ・今の自分がここにいる（健康で暮らしている）のは家庭の方のおかげであることに注目する。 ・生まれてくるまで、長い間お腹の中で成長していることを知る。 ・生まれてくるまで母がどれだけ大変な思いをしてきたかを知る。 ・お腹の中にいるとき、赤ちゃんは（私）何を考えていたのだろうかを考える。 ・お腹の中にいるとき、家族がどんな気持ちで、何を考えていたのだろうかを考える。（名前を考えていたことに気付くように言葉かけをする）</p> <p>○自分の名前には家族の願い（想い）があることを知りワークシートに記入する。 ・家庭からのアンケート用紙を渡し、それぞれ生まれたときの様子や名前の由来を知り、家族への感謝の気持ちや自分への期待感（自身の存在意義）を抱かせられるようにする。（家庭にて行う）</p> <p>○次時の学習内容を伝える。 ・家族の方へメッセージを書くことを伝える。</p>	<p>ワークシート①</p> <p>誕生までの写真 （パワーポイント で映し出す）</p> <p>ワークシート②</p>

【ワークシート①】

氏名 _____

	♡ 赤ちゃんの気持ち (私の気持ち)	♡ 家族の気持ち
赤ちゃんがお腹の中にいるとき		
お腹の中から出てきたとき (生まれたとき)		

【ワークシート②】

アンケート用紙を見て、私の名前の由来 (どんな人間になってほしいと思っていたのでしょうか) 書きましょう。

名 前	私の名前の由来 (誰がどんな気持ちや期待感をもって名前を付けたのか書きましょう)
私の名前を書きましょう ※苗字は書きません。 優 子 (ゆうこ)	いろいろな人と仲良くふれあいながら、どんな人にも優しく、思いやりの心をもってほしいと思い、優子という名前を付けました。

高等部 道徳教育 学習指導案

1 主題名

自己決定力と他者理解 「あなたは、どちらを選びますか？」

(内容項目・自己決定力と他者理解)

(1) ねらい

- ・自分で考え判断し、より良い選択ができる。
- ・他者の意見を聞き、互いの価値観を共有する事ができる。

(2) 主題設定の理由

日常生活の中には自己選択を迫られる場面がある。他者と同じ結果を選んだとしても心の葛藤とどのように向き合い選択をしたかによっては各々その思いは違ってくる。またその選択には、どちらにも言い分があり一概にどちらが正しいと言えないものもある。そこで、資料「あなたは、どちらを選びますか」を通して自分の中の葛藤と向き合い、自分が大切にしたいことはなにかを明らかにしたり、自分の立場だけでなく他者の立場にも目を向けられるようになっていたりして欲しいと考えた。また友人の意見を聞く態度を育み、他者の選択肢を尊重し認め合い、色々な考え方があることを知ってほしいと考えた。

本資料は、客の立場のもの①と、店の立場のもの②と 2 つの資料から構成されている。日常生活にありそうな注文の間違いや本校文化祭を舞台にして実際に生徒が販売している商品を題材にすることで親近感が持てるようにと考え作成した。本時は資料①を取り上げる。

(3) 展開

	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (5)	1 本時の授業内容を知る。 ・ 日常生活の中でどちらを選ぶか迷った経験はありますか？	・ レストランで何をたべるか。 ・ 部活に入る、入らない。 ・ 欲しいものが二つある時	・ 日常生活の中で選択する機会が多いことに気づかせる。
展開 (35)	2 本時の授業のルールを知る。 ルール ① 友達の意見を否定しないこと。 ② 自分の素直な意見を書くこと 3 資料の提示 ・ ワークシートの説明文を聞く。 自分で選択し、選んだ理由を書き込む。	・ 言う *注文と違うから *間違ったことを知って欲	・ ルールを徹底することで安心して素直な意見を出しやすくする。 ・ 資料を配付 ・ 資料を朗読し、意味が読み取れない生徒がいる



4 話し合い

- ・黒板の「言う」「言わない」のコーナーに自分の名前を書く。



- ・自分の意見を発表する。



- ・それぞれの意見を聞いた感想を発表する。
- ・もう一度選択をし、理由を書き込む。
- ・黒板の「言う」「言わない」のコーナーに自分の名前を書く。

終末
(5)

- ・感想を記入する。

- しい
- *他の人の注文かも
- ・ **言わない**
- *めんどくさい
- *たくさんたべられる
- *店員がおこられるかも
- *すてられたらもったいない

- ・色々な考えがある。
- ・なるほど・・・
- ・反対の考えがある

- 場合には補足説明をする。
- ・意見がなかなか出てこない生徒には個別に対応し、例をあげるなどして意見を補うようにする。

- ・意見が偏ったり、考えが深まらないときは、発問で逆の立場からも考えるように促す。

- ・ルールを守るように声をかける。

- ・意見を替えた生徒には、理由を発表してもらう。

- ・授業を振り返り、感じたことを文章にするように促す。

<事後検討会>

(1) 授業記録

本校は、23年度より「道徳」を週1時間、週時程に位置づけている。また今年度までは、1, 2, 3年生が同じ課題に取り組んでいる。以下の感想やデータは、全学年のものを集約し掲載したものである。

<ワークシートより>

問題①

1 言う 60%

理由・注文したものと違う

- ・食べたいものと違う
- ・間違っている
- ・腹が立つ
- ・お腹をこわす
- ・正直に伝えたい
- ・お金を多く取られると困る
- ・両方とも手に入るかもしれない
- ・店員さんに間違えたことを知ってほしい
- ・ミスを伝えることで同じことを繰り返さないようにできる
- ・他のお客さんが頼んだものかもしれない

2 言わない 40%

理由・得した

- ・もったいない
- ・めんどくさい
- ・いやがられる
- ・言う勇気がない
- ・クレームだと思われる
- ・腹に入れば一緒
- ・自分がきちんと注文できてないかも
- ・店員さんが傷つく
- ・店員さんが怒られたらかわいそう
- ・せっかく用意してくれたから

学級内で話し合った後の選択

- ・言う①→言わない②へ変更 21%
- ・言わない②→言う①へ変更 18%

友達の見聞を聞いた感想

- ・自分と同じ意見の人や違う意見の人がいた。

- ・違う意見に納得がいかない。
- ・友達の意見がいいと思った。
- ・色々な考え方や意見があつてすごいと思いました。
- ・「言う」を選んだ人は、ちゃんと言えてえらいと思った。
- ・人それぞれなんだなと思いました。
- ・みんなの意見がはっきりしていて良かった。
- ・みんなの意見もいいなと思う。「言わない」を選んだ人の理由も正しいと思った。
- ・俺と違ってみんな具体的で適当じゃなかった！
- ・自分が馬鹿だということに気づきました。
- ・みんなの考えは個性的でとてもおもしろかった。
- ・自分の気持ちを正直に言うのもいいが、店員さんの気持ちも考えてあげたい。
- ・他の意見も確かにあるなぁと共感できた。
- ・友達の意見を認めている人もいて正直えらいと思いました。

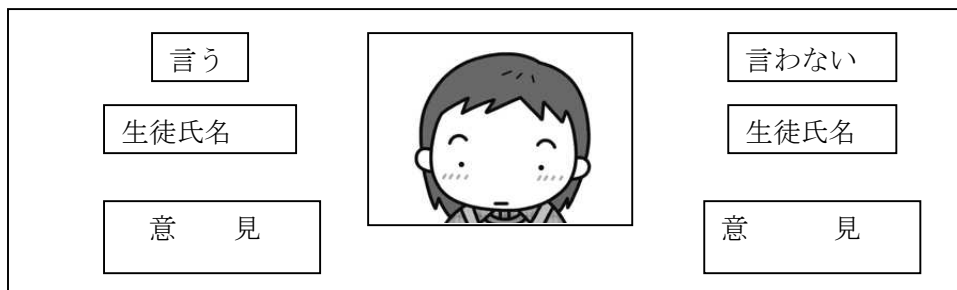
問題①に取り組んだ感想

- ・みんな色々な意見があつたのがわかりました。
- ・話し合いをして意見を言えてよかったです。
- ・友達と考えが違う事がわかった。
- ・やっぱり意見が分かるとおもしろいって思いました。
- ・今日の授業でやったことは今後こういう時があった時役立つのでよかったです。
- ・普段の生活で自分で判断して行動しないといけない時があります。そういう時も大変だけどがんばりたいと思います。
- ・ちゃんと自分で判断して生活をしていく事が大切だと思いました。
- ・大人になると、こういう場面がたくさんあるのかなと思った。

<本事例の活用に関する留意点>

(1) 授業運営について

① 板書計画



② 資料

教員が朗読し、意味がつかめない生徒がいる場合は、説明を補足したり 絵を書くなどして支援する。

③ 話し合い

ルールを徹底し、素直な意見が出やすい雰囲気を作る。

【ワークシート】① 「注文したアイスクリームが…あなたならどうします

年 組 氏名

問題① アイスクリーム屋さんで、「ストロベリーとバニラのダブルアイスクリームのコーン」で注文したところ、店員から渡されたものは、「ストロベリーとチョコとクッキー&クリームのトリプルアイスクリームのコーン」でした。
あなたは、店員に言いますか？言いませんか？

自分の意見 ※1と2のどちらか1つを決め、○をつけ、選んだ理由を書いてください。
1. 言う 2. 言わない

選んだ理由

友達の見 ※友達の見をプリントに書いてください。



友達の見を聞いた感想

↓
【学級内で話し合った後の選択】

自分の意見 ※1と2のどちらか1つを決め、○をつけ、選んだ理由を書いてください。
1. 言う 2. 言わない

選んだ理由

問題①に取り組んだ感想

【ワークシート】② 「野菜が足りない！…あなたならどうしますか？」

年 組 氏名

問題② K O Y O 祭当日、流山高等学園の農業コースのダイコン販売のテント前には、朝早くから長時間並んでいるお客様が大勢います。販売をしているあなたは販売途中で、ダイコンの数と整理券の枚数が合わず、ダイコンの数が少ないことに気づきました。

あなたは整理券があるお客様にダイコンがないことを伝え、販売しませんか？

スーパーで買って来て、整理券のあるお客様にダイコンを販売しますか？

自分の意見 ※1と2のどちらか1つを決め、○をつけ、選んだ理由を書いてください。

- 1. 販売しない
- 2. 販売する

選んだ理由

友達の見 ※友達の見をプリントに書いてください。



=====
友達の見を聞いた感想
=====

↓
【学級内で話し合った後の選択】

自分の意見 ※1と2のどちらか1つを決め、○をつけ、選んだ理由を書いてください。

- 1. 販売しない
- 2. 販売する

選んだ理由

問題②に取り組んだ感想

高等部ホームルーム「道徳を学ぶ時間」学習指導案

1 主題名 「よりよい生き方」

○千葉県道徳教育の指針

2-2 【かけがえのない自分】 自分のよさに気づき、なりたい自分を目指す
よりよい生き方を求める

2 資料名 「スラムダンク」 (集英社 井上雄彦)

3 主題設定の理由

(1) ねらい

目標に向かってひたむきに努力する主人公の姿に触れ、自分の姿を振り返りよりよく生きようという気持ちを育てる。

(2) 生徒の実態

本グループは、高等部の抽出生徒からなるグループであり、男子14名、女子8名、計22名で構成されている。知的障害の程度は軽度で、卒業後は事業所への就労、就労移行支援施設の利用を目指している生徒がほとんどである。身の回りのことはほぼ自立しており、日常生活において他者とのかかわりを楽しんだり、共通の話題で会話を楽しんだりすることができる生徒が多い。また、自宅から学校まで、公共の交通機関を利用して自力で通学しており、休日も友達と公共の交通機関を利用して外出することができる。反面、失敗を極端に怖がったり自己主張が苦手だったりという生徒が多く、自分の考えをもったり物事を深く考えたりすることが難しい面がある。これまでの道徳学習で、生徒に「自分のことが好きですか?」という質問をした際、「嫌い」と回答したり自分の長所を言えなかったりという生徒がほとんどで、自己肯定感が低いということが分かった。そこで、これまでの道徳の授業では、第1回「自己理解」、第2回「信頼・友情」という主題で、「自己を見つめ自分のよさに気づくこと」、「友達の存在や友達とのつながりを感じ取ること」を通して、自己肯定感を高め「自分を大切にしよう」という気持ちを育てることをねらって学習を行ってきた。また、「生徒ひとりひとりがじっくり考え、自分の考えをもつ」ということを大切に学習を行ってきた。本時においても、「みんなが考えをもつ」ということを大切にして、学習を進めていきたい。

また、本グループの生徒の多くは、先を見通して物事を考えることが苦手な面があり、具体的に自分の将来について目標や夢を思い描き、そのために今どのように過ごすべきかを考えることが難しい。生徒の日々の様子を見ていると、毎日なんとなく周りに流されて過ごしている部分があるように感じる。

これらのことから本時は、目標に向かってひたむきに努力する主人公の姿を取り上げながら、あらためて自分の姿を見つめ直すことで、「自分がどうありたいか」を考え、よりよく生きていこうという気持ちをもってほしいと願い、本主題で取り組むことにした。

(3) 資料について

本資料は、集英社出版「スラムダンク」から、主人公のひたむきに努力する姿を描いた部分を抜粋し、本グループの生徒が理解しやすいよう整理し、作成したものである。

主人公の桜木花道は、本グループの生徒と同年代の高校生である。目標もなくなると毎日すごしていたが、バスケットボールに出会って夢を持ち、ひたむきに努力するようになる。初心者でルールも分からない主人公が、地道に基礎練習に取り組み、馬鹿にされてもおかまいなしに夢に向かって突き進む物語である。

生徒が親しみを持ちやすいアニメを用いることで、学習への関心を高めるとともに、場面をイメージしやすいよう動画を多く活用して本資料を作成した。

4 道徳学習の年間計画

	主題名	千葉県の道徳教育の指針
第1回 7月	～自己理解～ ・自分のいいところ探しをする。 ・友達のいいところを見つけて、伝え合う。	2 【かけがえのない自分】 自分の生き方を見つめ個性を輝かす
第2回 7月	～友情・協力～ ・「泣いた赤鬼」の赤鬼と青鬼の行動をもとに、「友情」について考える。	3 【支え合う喜び】 家族や周りの支えに感謝し、豊かな人間関係を築く
第3回 10月 (本時)	～よりよい生き方～ ・「スラムダンク」の主人公の姿から「よりよい生き方」について考える。	2 【かけがえのない自分】 自分のよさに気づきなりたい自分を目指す
第4回 3月	～よりよい生き方～ ・NHK for school「時々迷迷」より、社会のモラルやルールについて考える。	3 【支え合う喜び】 社会の一員として責任を果たす人間になる

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・発問に対し、自分の考えを持つことができる。
- ・自分自身を振り返り、「なりたい自分」について考えることができる。

(2) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (15分)	<p>・前回の授業を振り返りながら、「じっくり考える」ことを大切に学習することを確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>○ 発問 ・生徒の活動</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>○ 「生きている」とはどういうことだと思いますか？</p> </div> <p>・「生きている」についての考えを自由に発言する。</p>	<p>・呼吸すること</p> <p>・ご飯を食べること</p> <p>・喜んだり悲しんだりすることなど</p>	<p>・あらかじめ座席を指定しておき、座席表を黒板に提示しておく。</p> <p>・生徒からなかなか発言が出ない場合は、STが例を示す。</p> <p>・発言することが難しい生徒の考えをSTが個別で質問しながら引き出し、T1に伝える。</p>

	<p>◎本時は「生き方」について考えていくことを知る。</p>		<p>・「生きていること」から「どんな風に生きるか＝生き方」につなげるよう、生徒のつぶやきを拾いながら本時の主題を伝える。</p> <p>※板書：「生き方について考えてみよう」を提示する。</p>
<p>展開 (40分)</p>	<p>【自分の姿を見つめる－1】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○今の自分の「頑張り度」は、何レベルだと思いますか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの「今の自分は何レベル」のところに考えを記入する。 ・ホワイトボードの線分図の自分の思う位置に名前カード（青）を貼る。 <p>【資料「スラムダンク」の映像を見る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公「桜木花道」について知る。 <p>① 基礎練習しかやれない場面を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎練習の一部を体験してみる。 ・感じたことを自由に話し合う。 <p>② 失敗したり、笑われたりする場面を見る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レベル5 ・わからないなど <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※資料を見ているときの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T2～T5は担当の生徒（O, H, E, H, S）の側に付き、必要な助言、補助説明をする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ◎つまらない ・試合に出たい ・悔しい ・意外と辛いなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・線分図に表すことが難しい生徒には、教師が具体的に質問しながら一緒に考えるようにする。 ・「頑張っている自分とそうでない自分、どちらが多いかな？」と判断の目安の例を伝える。 ・プロジェクターで提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎練習がどのようなものか、体験してみることで、イメージが持てるようにする。 ・「毎日、ずっと繰り返す」という点を強調して伝える。 <p>※ワークシートには記入せず、板書しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとの映像を提示しておくことで、状況

	<p>○主人公の気持ちを想像してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを自由に発言する。 <p>③ それでも、ひたむきに努力し続ける主人公の姿を見る。 (場面) 朝練、リバウンドの特訓、床磨き、ボール磨き</p> <p>○なぜ、こんなに頑張れるのでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えたことをワークシートに記入する。 ・何人かの生徒が発表する。 <p>【自分を見つめる】</p> <p>○桜木花道の姿を見て、改めて自分の「頑張り度」は何レベルか考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前カード(赤)を線分図に貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やめる ・文句を言う ・もっと努力するなど <p>◎夢があるから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対に負けたくないから ・うまくなりたいから ・自分は天才だと信じているからなど <ul style="list-style-type: none"> ・レベル4 ・レベル2 など <p>◎最初の「頑張り度」より低くなっている。</p>	<p>をイメージしやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の場面とのつながり(基礎練習を頑張っているのに…)という点を強調して伝える。 <p>※板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の場面につなげて考えられるようにする(基礎練習、失敗の連続、自分だったらやめる)。 ・STは机間巡視の中で、「夢」や「目標」などの言葉を書いている生徒をピックアップしておき、発表するよう促す。 <p>※板書する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜木花道の頑張り度を強調しながら、改めて自分を見直してみるよう助言する。 ・最初に考えた「頑張り度」と改めて考えた「頑張り度」の変化に気づけるよう、名前カードを色分けしておく。
(20分)	<p>※本時の中心発問</p> <p>◎これからどんな自分になりたいですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの「こんな自分になりたい!」を記入する。 <p>※じっくり時間をかけて、考えを深める。</p>	<p>◎夢をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・努力できる人 ・頑張り屋 ・あきらめない人など 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の姿から感じたことをもとにして、考えるよう言葉かけする。 ・自分の考えだから、何を書いてもよいことを伝える。 ・机間巡視しながら、個々のワークシートに記入してある内容について、さらに考えを深められるよう助言する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・発表し合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・STは、机間巡視の中で全体で共有したい内容を書いている生徒を見つけ発表するよう促す。 ※発表の内容を板書する。
終末 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、感想をワークシートにまとめる。 ・教師の勇気や自信がわく名言の発表を聞く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返るよう、板書を残しておく。 ・教師が好きな言葉を紹介する

(3) 生徒の目標と手立て

【道徳学習で迫りたい生徒の課題】

○物事を深く考えたり、外部からの情報を受け止めたりすることが難しい面がある。

○自己中心的な発想のため、他者の気持ちを考えることが難しい面がある。

	本時の目標	本時の手立て
A 1 (1年)	自分を見つめ線分図に表すことができる。	判断の目安を具体的に示し、必要に応じて助言する。
A 2 (1年)	主人公の姿から感じたことをもとに「なりたい自分」について、具体的に考えることができる。	主人公の行動を思い返したり、板書を振り返ったりしながら、考えるよう助言する。
A 3 (1年)	発問に対する自分の考えを言葉にして表現することができる。	個別に「どう感じた？」と質問し、考えを引き出すようにする。
A 4 (1年)	自分の姿を見つめ、「なりたい自分」について考えることができる。	「自分で考える」ことを大切にしながら必要に応じて個別で質問や説明を加える。
A 5 (1年)	主人公が「なぜこんなに頑張れるのか」について、考えることができる。	主人公の状況をイメージして考えられるよう、必要に応じて個別で補足説明をする。
A 6 (1年)	主人公が「なぜこんなに頑張れるのか」について考えることができる。	主人公の置かれた状況をスポーツ以外のものを用いて例え、本人が場面をイメージしやすいようにする。
A 7 (1年)	主人公の姿から、「なりたい自分」について具体的に考えることができる。	自分と主人公の似ている点や異なる点に着目しながら、具体的に考えるよう助言する。
A 8 (1年)	主人公を支えたものが「夢」や「目標」だったということに気づき、「なりたい自分」につなげることができる。	本人の考えを大切に、助言は最小限にする。
B 1 (2年)	「自分が主人公の立場だったらどうするか」を考えることができる。	動画や体験を取り入れることで、主人公の状況をイメージできるようにする。

B 2 (2年)	発問に対し、じっくり考え、自分の考えを持つことができる。	個別で言葉かけすることで、学習に取り組む意欲が持続できるようにする。
B 3 (2年)	「なりたい自分」について具体的に考えることができる。	個別で言葉かけや助言をし、考えを深められるようにする。
C 1 (3年)	主人公の姿から感じたことをもとに、「なりたい自分」について具体的に考えることができる。	主人公の姿を思い返したり、板書を見返したりしながら、考えるよう助言する。
C 2 (3年)	場面を理解して、自分だったらどうするかを考えることができる。	動画や体験を取り入れることで、主人公の状況をイメージできるようにする。
C 3 (3年)	場面を理解して、自分だったらどうするかを想像することができる。	動画や体験を取り入れることで、主人公の状況をイメージできるようにする。
C 4 (3年)	自分を見つめ「頑張り度」の図に表すことができる。	具体的な判断の目安を示し、一緒に考えるようにする。
C 5 (3年)	主人公の姿から感じたことをもとに「なりたい自分」について考えることができる。	自分で気づくことを大切に、言葉かけは最小限にする。
C 6 (3年)	自分を見つめ「頑張り度」を線分図に表すことができる。	具体的な判断の目安を示すようにする。
C 7 (3年)	「なりたい自分」について考え、記入することができる。	主人公の姿から感じ取ったことを思い返しながら、考えるよう助言する。
C 8 (3年)	発問に対してじっくり考え、言葉にして教師に伝えることができる。	個別に「どう感じた？」と質問し、内面にある考えや感想を引き出すようにする。
C 9 (3年)	主人公の姿から感じたことをもとに「なりたい自分」について考えることができる。	主人公と自分を比べながら考えるよう助言する。
C10 (3年)	場面を理解し、自分だったらどうするかを考えることができる。	動画や体験を取り入れることで、主人公の状況をイメージできるようにする。
C11 (3年)	主人公の姿と自分の姿を比較し、「なりたい自分」について具体的に考えることができる。	主人公の姿や言動を自分と比べてみるよう助言したり個別で質問したりする。

(4) 評価

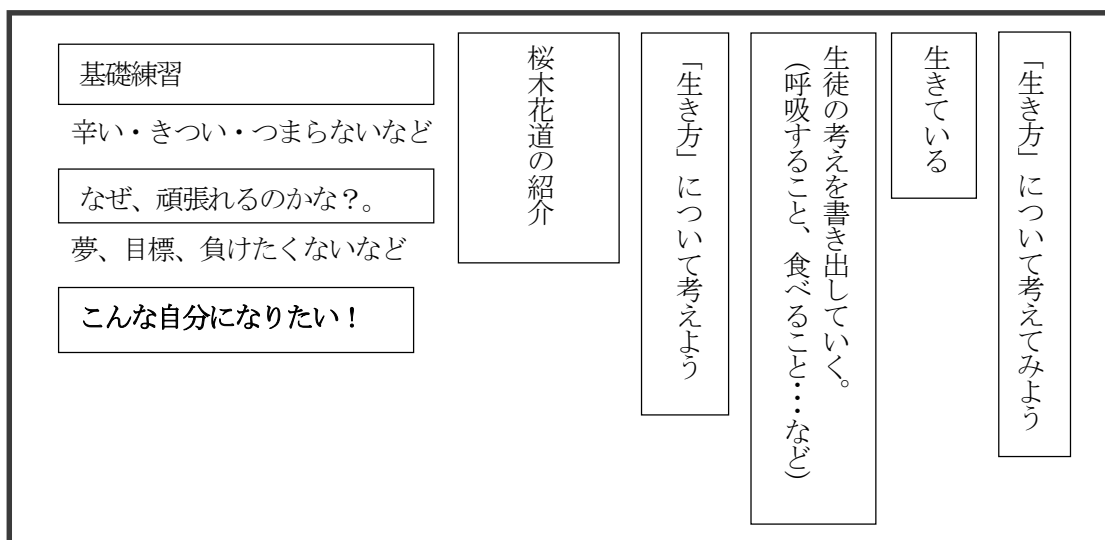
- ・発問に対し、自分の考えを持つことができたか。
- ・自分自身を振り返り、「なりたい自分」について考えることができたか。

(5) 教材・教具

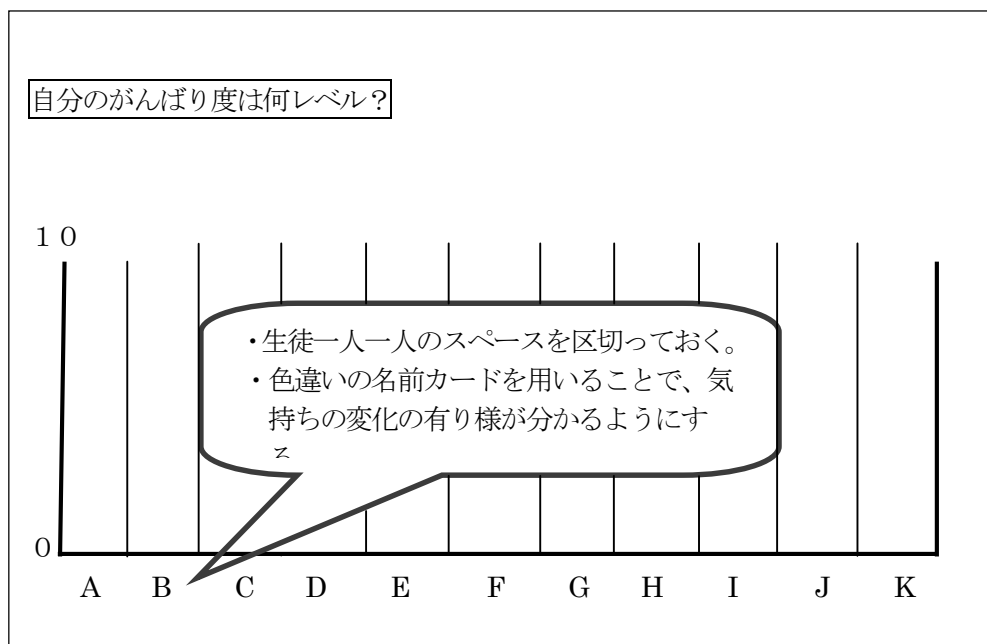
- ・資料映像 (スラムダンクより) ・ワークシート
- ・線分図 ・名前カード (青・赤) ・ホワイトボード ・プロジェクター
- ・座席表 ・桜木花道のポスター
- ・黒板の表示札 (「生き方について考えよう」「基礎練習」「失敗・うまくいかない」「こんな自分になりたい!」)

(6) 板書計画

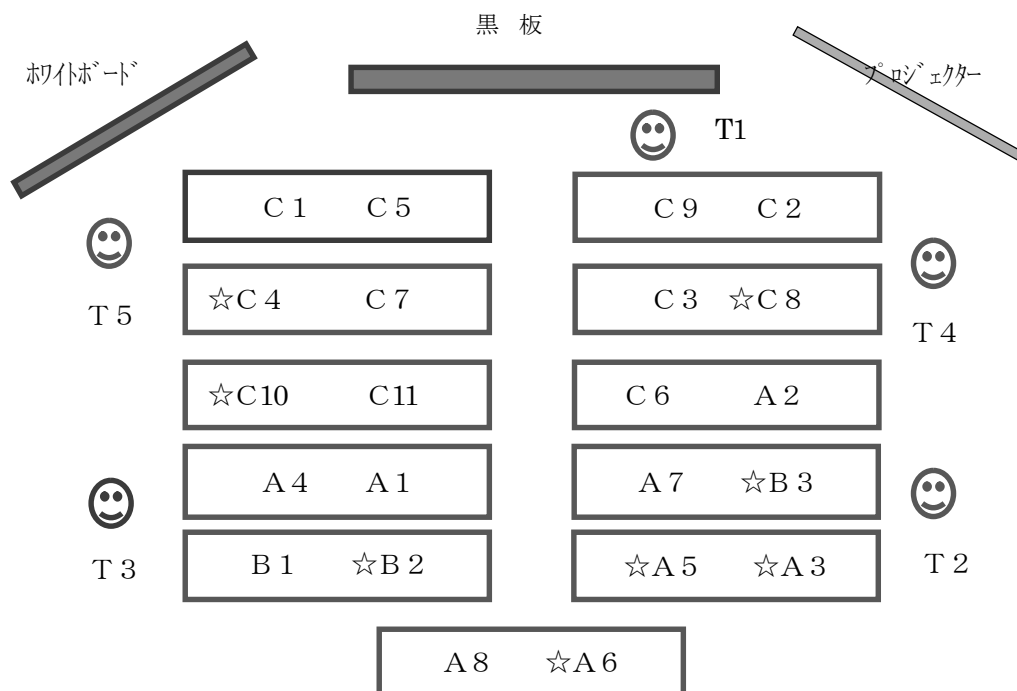
①黒板



②ホワイトボード



(7) 場の設定 (☆ 個別の言葉かけや支援が必要と思われる生徒)



高等部 1 学年 課題学習グループ 道徳学習指導案

- 1 主 題 名 マナーについて考える
 内容項目名 4-② 公正・公平、正義
- 2 本時のねらい マナーについて知ることができる。
 なぜマナーがあるのかを知り、自分でできることを考える。
- 3 主題設定の理由、生徒の実態

本グループは、積極的に自分から友達に関わりを持つようとする生徒から教師との関わりが主である生徒まで生徒の実態が幅広いグループである。グループの多くはスクールバスで登下校をしているが、今後自力通学をしようと考えている生徒が何人かいる。また後期からは実習が始まり、公共の場を利用する機会が増えてくる。そのため、公共の場で必要なルールやマナーについて改めて認識を持ってもらいたいと考え、本テーマを設定した。

本グループの生徒のほとんどがルールやマナーについての認識はあるが、ルールやマナーの必要性や存在意義についてははっきりと理解ができていない。そのため、公共の場でルールやマナーを守ろうという意思が弱いように感じられる。身近なルールやマナーを拾い上げ一つ一つ存在意義を考えさせることで、「自分だけがよければよい」という考え方から、他者への配慮や思いやりを大切にして、社会生活をよりよくしようとする心をはぐくんでいきたい。そのために、公德心や社会連帯について読み物資料で授業すると硬くなってしまうため、生徒が最も多く活用している電車のマナーポスターを活用し、生徒の興味関心を引きながら公德心と社会連帯の心を育てていくよう指導方法を工夫した。

4 学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導 入 ・ 展 開	1. あいさつ 2. マナーとは何か知ろう。 →プリントに記入するよう にする。 3. マナーはどのような場所に 存在するか考えよう。 ・なぜマナーは必要なのだろ う。 「電車のマナーポスターを見 て思うことを書き出そう」	・その場に適切な態度や行動 ・電車、バス ・お店、食事 など ・若い人が優先席に座ってい て、おじいさんが困ってい る。 ・騒いでいて、周りの人に迷 惑をかけている。	・学校生活のきまりやスポーツ、社会生 活など身近な場面で振り返るよう にする。 ・プリントにまとめられるようにする。 ・マナーという言葉がどんなところで使 われているか、例を出しながら確認し ていく。 ・プリントに考えを書き込めるようにす る。 T1：簡単にマナーという言葉を使うが、 改めてマナーとはどんなものか、な ぜ必要なのかを電車のマナーポス ターをつかって説明し、考えられる ようにする。 ・見やすいように縮小版のポスターを 配布する。
	4. マナーが悪いところを直し ていこう。 →教師が演じるマナーが悪 い人を指摘しどのように すればよいのかを考え る。	・電車の中では騒がない。 ・席を譲る。 ・電車の中での通話はいけな い。	T1：妊婦役。座れず困っている役を演 じる。 T2：席を譲らず、携帯電話をいじっ ている役を演じる。 T1：マナーがどのように悪いのか説明 を加えていく。 T2：考えが出にくい生徒に対して場面 に応じて補足を加える。

	<p>5・電車の中で席を譲る役と譲られる役に分かれて体験。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントに感想を書く ・感想を発表する ・別の役を演じた友達の感想をプリントにメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・席を譲ったことで喜んでもらえて嬉しい。 ・譲ってもらえて嬉しかった。 <p style="text-align: center;">等</p>	<p>T1：場面設定（ケガをしていて座りたいのに座れない場面）をし、生徒が演じられるようにする。 譲ってもらった時の気持ちを引き出すようにする。</p> <p>T2：譲る側にどのように譲れば良いか必要に応じて補足を加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見が出ない生徒には個別に、プリント振り返りながら感じたことを引き出すようにする。 <p>T1：意見を板書し見やすいようにする。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終末</p>	<p>6. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだこと、感じたことをまとめる。 ・自分ができることを考える。 <p>7. 終わりのあいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーを守るということは気持ちのいいことなんだ <p style="text-align: center;">等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共の場をきれいに使う。 ・電車やバスの中では、困っている人に席を譲る。 <p style="text-align: center;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感想をまとめる 「マナーとは、自分のことばかり考えるのではなく、相手の気持ちになって行動すること（＝思いやり）ということである。」 ・意見を発表してもらおうようにする。

5 評価 ルールやマナーについて知ることができたか。
なぜルールやマナーがあるのかを知り、自分でできることを考えることができたか。

6 参考資料



公益財団法人メトロ文化財団マナーポスターホームページ引用

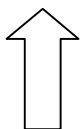
<http://www.metrocf.or.jp/manners/manner-poster.h>

マナーについて^{かんが}考えよう

なまえ

①マナーとは

その場に^{ば あ}合った ^{てきせつ}適切な



②マナーが必要な^{ひつよう}場所は、どんなところがあるのだろうか？

③ポスターを^み見て^{かんが}考え てもみよう

・ さんのポスターだろう？

・ ポスターを^み見て、^{かん}感じたことを^か書いてみよう！

わるいところは？

•

まわりの ひと は どう こまっていたかな？

•

どうすればいいのかな？

•

•

•

•

④ ^{えん}演じてみよう！

★^{じぶん}自分の^{やく}役に○をつけましょう。

・^{せき}席を^{ゆる}ずられる役

・^{せき}席を^{ゆる}ずる役

・^{せき}席を^{ゆる}ずってもらってどう思ったか。

・^{こま}困っている^{ひと}の人に^{せき}席を^{ゆる}ずってどうだったか。



⑤ ^{じぶん}自分でできることを^{かんが}えよう！

ばしょ
場所

ないよう
内容

高等部2年 道徳学習指導案

1 主題名 きまりを守ろう

(関連：道徳教育の全体計画…高等部重点目標④，道徳教育年間計画6月)

2 資料名 「油断したぼく」(出典「きみがいちばんひかるとき」光村図書)

3 ねらい

- ・きまりを守ることが，みんなの安全・安心につながることをわかる。
- ・進んできまりを守ろうとすることができる。

4 主題設定の理由

本主題は，小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の内容4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(1)「公德心をもって法やきまりを守り，自他の権利を大切にし，進んで義務を果たす」を受けて設定したものである。

本資料は，主人公である「ぼく」が自分の不注意から自転車で車と接触してしまったことを通して，交通ルールや「あたりまえのルール」を意識するようになる児童作文である。

本主題は「きまりを守ろう」である。家庭生活や学校生活をはじめ，社会生活，集団生活を営むためには，様々なきまりがあり，それを守ることで安心して暮らすことができる。学校生活では「決められた服装」「ゲームやマンガなどの使用禁止」などのきまりがあり，社会生活では「赤信号では止まる」「ゴミは分別する」などのきまりがある。それらを自分の体験と結びつけながら考えることで，日常生活の中にあるきまりに対する理解を深め，きまりを意識した生活につながると考える。

本授業は，1、2、3組から生徒を10名抽出して合同で行う。10名全員が言葉でのコミュニケーションを取ることができ，8名が思っていることを自分から相手に伝えることができる。2名は言葉掛けにより，思いや意見を述べることができる。10名全員が「高等部 生徒心得」をおおむね守ることができているが，身だしなみや持ち物，登下校中の交通ルールへの意識に課題のある生徒もいる。また，7名は自転車や公共交通機関を利用して自力通学をしており，他3名も卒業後は自立した生活を目指している。

本授業では，それぞれの場面での登場人物の気持ちを想像したり，自分自身の体験を振り返ったりしながら，きまりを守ることの大切さに気付けるようにしていきたい。この授業を通して，交通ルールや身近にある「あたりまえのルール」に触れ，一人一人がこれを守ることで，安全で安心して生活できる社会につながること気付いて欲しい。そして，みんなが安心して暮らせるように，進んできまりを守ろうとする態度を育てたい。また，7月に行われる宿泊学習への安全意識や，きまりを守って活動しようとする態度につなげていけるような授業にしていきたい。

5 展開

時配	学習活動と主な発問	教師の支援
導入 (10分)	<p>1 きまりについて話し合う。</p> <p>①「学校の中にはどんなきまりがありますか？」</p> <p>②「社会の中にはどんなきまりがありますか？」</p> <p>③「わかっているのについてやってしまった経験はありますか？」</p>	<p>○道徳の6月の目標と関連付けながら話を進める。</p> <p>※6月の目標：「約束や決まりを守り、学校生活を送ろう。」</p> <p>○なるべく全員が発表できるよう、発表したことを称賛し、発表しやすい雰囲気を作る。</p>
展開 (30分)	<p>2 「油断したぼく」を読んで話し合う。</p> <p>①「駐車場の出入り口から白い車が出てきたとき、『ぼく』はどんな気持ちだったでしょう」</p>	<p>○資料に対する生徒の理解が深まるように、教師がゆっくりと読む。また、読んでいる箇所を指で追うように促す。</p> <p>○登場人物の気持ちを想像するため、絵と吹き出し入りのワークシートを用意する。</p> <p>○考えを表現することが難しい生徒には、感情カードからどれが当てはまるか選ぶようにする。</p>
	<p>②「家族で交通ルールについて話し合ったとき、『ぼく』はどんな気持ちだったでしょう」</p>	<p>○不注意や油断が交通事故を招いてしまうことに気付けるように、必要に応じてヒントとなる段落を示すようにする。</p>
	<p>③「なぜ『あたりまえのルール』を、あたりまえに守るようにしなければならないのでしょうか」</p> <p>・導入で出た具体例を基に進める。</p>	<p>○交通ルールだけでなく、身近にある「あたりまえのルール」についても触れ、それを守ることの大切さに気付けるようにする。</p> <p>○具体的に考えられるように、導入で生徒から出た例を挙げるようにする。</p>
まとめ (10分)	<p>3 「今日の授業を振り返っての感想を書きましょう。宿泊学習にどのような気持ちで取り組みたいかや、この授業で学んだことなど、何でも良いです」</p>	<p>○学んだことを日常生活や宿泊学習に生かせるように、ワークシートは授業終了後集め、添削をして後日返却する。</p>

高等部2学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 自分の役割と責任
内容項目名 役割・責任（内容項目4－（3））
資料名 「今、できること」（出典『道徳教育映像資料』千葉県教育委員会）

2 ねらい

集団における自分の役割を自覚し、自分にできることを精一杯行ってその責任を果たすことのすばらしさ（自分を輝かせ、やってよかったと感じることができること）について考える。

3 主題設定の理由

（1）主題観

本主題は、「自分の役割と責任」である。自分の役割を自覚し、今、自分にできることを精一杯やってその責任を果たすことは、集団において自分を輝かせ存在価値を高めるばかりでなく、集団全体の向上にもつながる。そこで、生徒達が、自分が所属している集団の活動に参加し自分の役割を自覚してその責任を果たすことの大切さについて考え、そのすばらしさ（自分を輝かせ、やってよかったと感じることのできること）に気付き、進んで活動しようとする気持ちをもつことは意義があると考え。

（2）生徒の実態

高等部2学年は、学部の中堅学年であり、学級の係や委員会を始めとして諸行事の実行委員など、学校生活の様々な場面で中心的存在として責任ある活動を任されることが多い。生徒会や諸行事の実行委員としてみんなの前面に出て華々しく活躍している生徒や係活動や委員会の中心的メンバーとして得意な活動に力を発揮している生徒もいる。しかし、集団の中での自分の役割を自覚せず、何も自分がやらなくてもよいのではないかと考え責任を回避して、自分の存在価値を未だに十分見いだすことができないでいる生徒も見られる。また、自分でできることもすぐに他人を頼ってしまっていて最後まで自分の責任を果たすことができないでいる生徒もいる。そこで、生徒達には本授業をとおして、集団における自分の役割を自覚しその責任を果たすことの大切さについて考え、そのすばらしさ（自分を輝かせ、やってよかったと感じることのできること）に気付き、進んで活動しようとする気持ちをもってほしいと考える。

（3）資料観

本資料は、千葉県教育委員会制作の道徳教育映像教材「今、できること」である。身近な映像により、小学校5年生の一人の少年の委員会活動への取り組みをとおして、集団における「自分の役割と責任」について共感的に考えることができる教材である。

（4）指導観

本資料をとおして、集団における自分の役割と責任を自覚して自分にできることを精一杯行うことのすばらしさ（自分を輝かせ、やってよかったと感じることができること）について考えることができるように、特に以下の点に留意して授業を行う。

○主人公の心の葛藤を自分のこととして捉えるために、場面を印象づけられる映像教材やキーワードを効果的に用いる。

○美化委員の活動を一生懸命に行う翔太とその姿を見て感謝の気持ちを伝えた低学年の児童に着目できるようにする。

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (5) {個別} {一斉}	<p>1 係や委員会の活動を振り返る。</p> <p>○係や委員会の活動で楽しいと感じたり、やってよかったと感じたりするときはどうなときですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や文化祭で学部の運営委員や学校全体の実行委員になって準備活動を一生懸命にやり、無事成功してみんなに喜んでもらえたとき。 ・トイレ掃除を真面目にやり、友達や先生が「いつもきれいで気持ちが良い。」と言ってくれたとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの係や委員会の活動を通じて喜びや充実感を味わってきたことを確認し合うようにする。 ・生徒会活動やトイレ掃除を真面目に行っているA君、B君に、どんなときに充実感や喜びを感じたかを質問する。
展開 (35) {一斉}	<p>2 DVDの前半を視聴し、内容を確認する。</p> <p>○いつ頃、どのクラスで、何の時間に何をきめたのですか。</p> <p>○翔太は希望した委員になれましたか。</p> <p>○美化委員になった翔太の仕事ぶりはどうでしたか。</p> <p>3 主人公「翔太」の気持ちについて話し合う。</p> <p>○翔太はどのような気持ちで『あーあ、これを半年もやるのか。』と深いため息をついたのでしょうか。</p> <p>○あなたが翔太の立場なら、どんな気持ちで美化委員の活動に取り組むと思いますか。</p> <p>4 DVDの後半を視聴し、内容を確認する。</p> <p>○誰とどこに行きましたか。</p> <p>○そこで何があったのですか。何を見たのですか。</p> <p>○最後の場面は学校で何をしているときですか。</p> <p>○翔太は誰に何と言われましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学5年生の学級活動の時間に後期の委員会の委員を決めた。 ・集会委員を希望したのにジャンケンで負けてしまって結局なれなかった。 ・集会委員になれなくてかわいそう。 ・つまらなそう。 ・やる気がない。 ・嫌々やっているように見える。 ・やっぱり、集会委員の仕事がやりたかったな。 ・集会でみんなを盛り上げる仕事をする方が自分には向いているのに…。 ・美化委員は地味でつまらない仕事だ。 ・やらないと先生に叱られるので半年間は我慢してやる。 ・自分がやらないと他の人に迷惑をかけるので、がんばる。 ・美化委員として全力を尽くす。 ・クラス遠足でマザー牧場に行った。 ・動物の世話やトイレ掃除を一生懸命にやっている従業員の姿を見た。 ・お客さんに思いやりをもって気持ちよく笑顔で接している従業員を見た。 ・学校で美化委員会の活動で手洗い場の掃除をしているとき。 ・低学年の児童に「いつもきれいにしてくれてありがとう。」と言われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物や場面について、共通理解できるように場面ごとの写真やキーワードを提示する。 ・希望していた集会委員になれなくて、美化委員になった翔太のやる気の無さに気付くようにする。 ・自分の場合に置き換えて考えられるようにする。 ・美化委員会の仕事にやりがいを感じることができず、いやいやながら活動をする翔太の気持ちに共感できるようにする。 ・美化委員会では自分の個性を發揮できないと思い込んでいる翔太の気持ちに気付くようにする。 ・翔太の気持ちに共感しながらも、自分だったらどうするかについてしっかり考えるようにする。 ・登場人物や場面について、共通理解できるように場面ごとの写真やキーワードを提示する。 ・飼育係や清掃係、ウェイトレスの仕事で一番大切なことは何かを考えるようにする。 ・手洗い場の掃除を一生懸命に行う翔太とそれを認めて感謝の気持ちを伝えた児童に着目できるようにする。

	<p>5 主人公「翔太」の気持ちについて話し合う。</p> <p>○クラス遠足で行ったマザー牧場の従業員の仕事の様子を見て『そっか・・・。』と言った翔太はどんなことに気づいたのでしよう。</p> <p>○学校で手洗い場の掃除をしているときに低学年の児童に「いつもきれいにしてくれてありがとう。」と言われた翔太は、これからどんな気持ちで美化委員の仕事を続けていくでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが、今、自分にできることをがんばることが大事なのだ。 ・お客さんに喜んでもらえることにやりがいを感じているんだ。 ・こんな従業員がいるマザー牧場には、みんなまた来たくなると思うし、評判も上がるだろう。 ・自分に任された仕事を精一杯するってすばらしいことなんだ。 ・どの委員会の仕事も学校にとっては必要で、誰かがやらなければならないものなんだ。 ・最初は、いやだと思っていた仕事だけれど、がんばってやっていると、必ず認めてくれる人がいるものなんだ。 ・一生懸命に掃除をしてきれいになればうれしいし、そのことで他人に感謝されるって、気持ちいいと思う。 ・これからは美化委員の仕事にやりがいを感じながらがんばるぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で自分の役割を精一杯果たすことが集団としての向上にもつながることに気付くようにする。 ・自分の役割を自覚し責任を果たすことの大切さを再確認するようにする ・翔太の気持ちの変化に気付くことができるようにする。 ・美化委員の仕事をきちんと行い、個人の責任を果たしている今の翔太を周囲の人間はどう思っているのかを考えるようにする。
<p>終末 (10) {個別} {一斉} {個別}</p>	<p>6 本時の学習で気付いたことや感想などを書く。</p> <p>○この授業で考えたことやこれからの自分自身について思うことを自由に学習シートに書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私(僕)も係や委員会の活動などで、自分に任された仕事をがんばりたい。 ・翔太が自信を取り戻し、元気になってよかった。 ・自分も教室掃除をもっと一生懸命にがんばる。 ・廊下のモップがけ掃除を最後までしっかりやる。 ・どんな仕事にも精一杯がんばることが自分のためになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことを自由に書くようにし、机間巡視しながら個別に助言する。 ・友達の考えを参考にすることができるよう、挙手や指名により、何人かの発表を求める。 ・自分でうまく文章にまとめることができない生徒には、○×や三者択一で答える質問形式の学習シートを用意する。

高等部2年 道徳学習指導案

- 1 主題名 家族のためにできること
内容項目 4－⑤家族愛
主として集団や社会とのかかわりに関すること
- 2 資料名
「はじめてのおつかい」 筒井頼子 作 ・ 林 明子 絵 福音館書店
- 3 ねらい
主人公の行動をとおしてこれまでの自分を振り返り、家族のために自分には何ができるのかを考え、積極的に役に立とうとする態度を養う。
- 4 主題設定の理由
本主題は、本校で作成した道徳の内容項目（別紙参照）の4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の中から⑤「家族愛」をねらい、構成することとした。
今日の自分がいるのは、これまで支えてきてくれた一番の理解者である家族であることはわかっているものの、つい反抗的な態度をとってしまったたり、生意気なことを言ってしまったたりするのがこの年頃の生徒の特徴であろう。しかし、家族との様々なかかわりをとおして、家族の中での自分の立場や役割、また、家族からの愛情を知ることにより、家族の一員として家族のために役に立とうとする気持ちが生まれていくのではないだろうか。今日の家庭の状況は様々であり、その姿は一樣ではないが、大切なことは家族間の信頼関係であり、愛情によって互いが深い絆で結ばれていることの自覚であると考えられる。これまでの家庭での自分のあり方を振り返るとともに、家族のために自分には何ができるのかを考え、家庭での自分の役割を自覚し、積極的に役に立とうとする態度を育てていきたいと考え、本主題を設定した。
- 5 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (5)	1 家族がいてよかったと思う時の体験を発表し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">家族っていいなと思う時はどんな時ですか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風邪などの病気の時 ・ 悩みを聞いてくれる ・ 励ましてくれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由な意見が出やすいように明るい雰囲気作りを心がける。
展開 (20)	2 範読を聞き、家族に対する主人公の気持ちを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">資料1 おつかいをたのまれた主人公は、その時どんなことを考えていたと思いますか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ おつかいができるか心配だな。 ・ 迷子になったらどうしよう。 ・ 赤ちゃんのためにがんばろう。 ・ お母さんのためになろう。 ・ うれしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み聞かせを行うことにより、資料にひきつける。 ・ 事前に絵本全部をとおして読み聞かせを行っておく。 ・ 資料1, 2, 3の場面を順に取り上げて学習するようにする。 ・ 友達の意見がわかるように板書する。 ・ 主人公と同じ5歳くらいの頃の自分を振り返るようにして、主人公への共感的な気持ちが高まるようにする。

	<p>3 お店の人に会えてほっとし、涙を流す場面までの説明や範読を聞き、主人公の気持ちを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>資料2 がまんしていた涙が出たのはどうしてだと思いますか。</p> </div> <p>4 おつかいから帰るとお母さんが坂の下で待っていた時の主人公の気持ちを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>資料3 主人公は、どんなことをお母さんに話したと思いますか。</p> </div> <p>5 自分の生活を振り返り、これからの家族とのかかわり方について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>家族のためにやっていることはありますか。また、これから家族のためにどんなことをしていきたいですか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・男の人や女の人に順番を抜かされたりしてお店の人に会えなかったけれど、やっと見つけてもらえたから。 ・お店の人に気づいてもらえなくて、もうだめかと思っていたから。 ・牛乳が買えて安心したから。 ・おつかいはたいへんだった。 ・おつかいをしてきたけどお母さんうれしい？ ・疲れちゃった。 ・お母さんのためになれた？ ・風呂掃除をしている。 ・洗濯物たたみをしている。 ・食器洗いをしている。 ・自分ができることは手伝っていききたい。 ・健康に気をつけて心配をかけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公と自分とを照らし合わせて考えるよう伝える。 ・主人公の気持ちになって発表するように投げかける。 ・自分の意見を自由に発表できる雰囲気をつくる。
<p>終末 (15)</p>	<p>6 家族にむけて感謝の気持ちを込めたメッセージを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは家の手伝いをしていきたい。 ・相談にのってほしい。 ・体をたいせつにしてほしい。 ・心配をかけないようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前もって家族へのメッセージを書くことを伝えておく。

6 評価

- ・主人公をとおして、これまでの自分と家族とのかかわりについて振り返ることができたか。
- ・家族のためにできることを考え、進んで役に立とうとする気持ちを深めることができたか。

参考資料：道徳授業の定石事典 明治図書
道徳教材ベスト40 東洋館出版社
道徳の内容項目 本校平成25年度より

資料1

あるひ、ママが いいました。

「みいちゃん、ひとりで おつかい できるかしら」

「ひとりで！」

みいちゃんは、とびあがりました。いままで、ひとりで でかけたことなんか、いちども なかったのです。

「あかちゃんの きゅうにゆうが ほしいんだけど、ママ ちょっと いそがしいの。ひとりで かってこられる？」

「うん！ みいちゃん、もう いつつだもん」

資料2

「まあまあ、ちいさな おきやくさん。きがつかないで ごめんなさい」

お婆さんは、なんども あやまりました。

みいちゃんは きゅうに ほっとして、ぼろんと ひとつ、がまんしていた なみだがおっこってしまいました。

資料3

さかのしたで、ママが あかちゃんを だっこして、てを ふっていました。

道 徳 教 育

		小学部	中学部	高等部	寄宿部
合わせた指導	日常生活の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする(2-1) ・係活動をととして自分の役割をはたす自分でできることは自分でする(1-2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からあいさつをする(2-1) ・自分でできることを自分で進んで行う(1-3) ・身だしなみを整える(1-1) ・友だちと協力して活動する(2-3) ・自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを知ったりする(2-5) ・植物や土などに触れ、親しむ(3-1) ・季節に応じた活動を行う(3-2) ・働くことの大切さを知り、自分から進んで取り組む(4-5) ・時間や約束、決まりを守る(4-1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよいあいさつをする(2-1) ・その場に応じた服装、身だしなみをこころがける(1-1) ・約束を守る(1-1) ・整理整頓や片付け(4-3) ・支え合う、協力する、感謝するなど助け合う気持ちをもつ(2-3) ・仲間と協力する気持ちを育む(2-3) ・最後まで取り組む粘る力、仕事への態度(1-2) ・返事・報告、言葉遣いに気をつける(2-1) ・仕事への意欲や社会生活に参加する力を養う(4-4) ・お互いの理解、相手の立場の理解、思いやりを育む(1-5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・布団を敷いたり片付ける(1-1) ・就寝(1-1) ・排せつに関すること(1-1) ・衛生に関すること(1-1) ・洗面・歯みがき(1-1) ・掃除(雑巾がけ、ゴミ捨て)(4-2) ・配膳すること(2-3) ・食事に関すること(3-1) ・更衣に関すること(1-1) ・入浴に関すること(1-1) ・きまりを守ること(4-1) ・あいさつ・返事(2-1) ・余暇の過ごし方(1-3) ・持ち物の管理(1-3) ・日直や係の仕事(4-4) ・金銭の管理(1-3) ・携帯電話・ゲーム機の使用(1-3) ・宿題・学習(1-5)
	生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと仲良く活動する(2-2・3) ・順番やルールを守り、意欲的に活動する(4-2) 			
	作業学習				
教科指導	国語・算数(数学)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話を聞いたり課題に自分から進んで取り組んだりする(1-5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な文字、数、時間、金銭などを理解する(1-3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を見通し、実生活にかかわることを身につける(3-1) 	
	保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと協力して準備や後片付けをする(2-3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力をつけ、健康な身体をつくる(3-1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉づかい、友だち先生理解(2-1・2) 	
	音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールや集団を意識して、身体を動かす楽しさを味わう(4-1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・順番やルールを守り、集団スポーツを楽しむ(4-1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に関する知識を深め、健康・安全に生活する態度を養う(4-2) 	
	情報	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友だちと歌ったり踊ったりして一緒に活動を楽しむ(4-4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱や身体表現などで自分を表現する(1-5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動と鑑賞を通し、創造的な制作表現の楽しさを味わうとともに、豊かな情操を養う(1-5) 	
	美術		<ul style="list-style-type: none"> ・合奏などで、集団での一員であることの意識や協調性を身につける(4-4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな家庭生活に役立つように、体 	
	職業家庭				
領域の指導	自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・言語やサイン、カードなどコミュニケーション手段を用いて、教師や友だちとかかわる(2-3) ・教師や友だちとやりとりをしながら、ルールや順番を守って活動する(4-2) ・緊張を緩め、リラックスして過ごす(1-1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・順番やルールを守り、友だちと関わりながら活動する(4-2) ・自分の気持ちを言葉やサインで伝える(2-5) ・生活の中でいろいろな経験や体験をする(1-5) ・安全に注意して生活する(3-1) ・身近な社会の仕組みや公共でのマナーを理解する(4-4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身体の成長・健康安全に関心をもつ(3-1) ・公共施設の利用を通したルール理解やマナー理解を図る(4-2) ・家庭生活や余暇生活をより豊かに送れるように、興味・関心に基づく自発的な活動やレクリエーション活動に取り組む(1-5) ・課題解決や主体的な活動につながるように、余暇時間の充実を目標に取り組む(1-3) 	
	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなことをいろいろな表現で伝える(1-2) ・決まりを守り、自然に親しみながら楽しく集団活動に参加する(4-1) 			
	総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと交流を図りながら、ゲームをしたり、歌をうたったりする(2-2・3) ・自分の役割に見通しをもつ(1-1) 			

高等部 1 年 道徳学習指導案

1 単元名 思いやりって何だろう～東日本大震災から学ぶ～

2 単元設定の理由

＜生徒の実態＞

本学級は7名で構成されており、1年生に1学級という少人数で学習活動に取り組んでいる。学習や学級での活動では、内容を理解して自分から取り組める生徒、見通しをもつことができると友達と一緒に取り組める生徒、常に教師の支援が必要な生徒がいる。実態は様々であるが、学級の目標でもある「一人一人を大切にすること」を意識しながら、友達同士で協力する活動を大事にし、生徒一人一人がもてる力を発揮しながら、活気ある学級を目指している。

入学して間もない頃は、友達を意識したり、協力して活動をしたりする様子はほとんどなく、困っている友達がいてもそのままにして自分の活動だけを行う場面が多くみられた。そこで、道徳ではこれまでに「これが今の私」「友達のいいところを見つけよう」「他人とのかかわり」という単元に取り組むようにした。単元に取り組むにあたり、その活動を得意とする生徒と苦手な生徒とがペアやグループで一緒に活動できるように設定し、お互いを大切に、助け合う態度を養うことを重視してきた。その結果、互いにいいところや頑張っているところを伝え合う授業では、係活動や行事などでの頑張りをクラスの友達が見てくれていたことに嬉しさを感じ、達成感や自信につなげることができ、「友達」を意識するきっかけを作ることができた。

＜単元について＞

本単元では、生徒たちがより助け合うことの大切さを感じることができるよう「思いやりって何だろう」を設定した。思いやりとは、相手の立場に立って考えることができる心であり、人間が助け合い協力し合って生きていく上で大切なものである。授業の中では、東日本大震災の事例を通して、震災の惨状や避難所での生活を知ることからはじめ、被災者の方が体験したエピソードから「命の大切さ・他者を思いやること」を学んでいく。東日本大震災は多くの人にショックを与えた災害であった反面、大変な環境の中でも互いに声をかけ合いながら生活している人々の姿、自分のことだけでなく相手の立場で考えることの大切さなど、人と人が助け合うことの大切さを改めて考えるきっかけとなるだろう。資料とする事例は、非日常の中でも自分だけでなく他人のことを考えて行動をとった例として、社屋が浸水して機械が壊れてしまっても、手書きで発行し続けた新聞社を取り上げる。また、被災しなかった地域の幼児がお菓子を買おうとレジに並んだが、募金箱を見てお菓子を棚に返しお金を募金した例など、被災地に限った例だけでなく日常の中に存在した思いやりの例も紹介していく。相手の立場に立って物事を考えることができるよう、事例を通して登場人物がどのような気持ちで行動をしたのか、その人の思いを考えながら授業を進めていくようにする。

本時は、震災の事例を通して「思いやり」の言葉の意味や他者を思いやることの大切さについて学ぶ。また、これまでに自分が受け取った思いやりを「思いやり記録シート」にまとめる時間を設け、自分が家族や友人に大事にされてきたことを知り、相手のことを考えて行動することの大切さを感じてもらいたいと考える。小さなことでも相手を気遣うことの大切さに気付くように進めていき、普段から思いやりの心を大切にすることを養うようにしたい。

思いやりとは、言葉や表情、態度や行動などから伝わるものであると考える。単元を通して、相手の立場に立った言動や行動にはその人の思いが表れ、相手に伝わっていくことを感じ取ってほしい。人は他者との関係の中で生活しており、お互いを思いやるのが大切である。生徒一人一人が友達や家族、身近な人に対して思いやりをもって日々の生活を送ることができるよう期待する。

3 題材の目標

- ・思いやりの心の大切さに気付くことができる。
- ・今後の生活の中で自分達にできることを考えることができる。

4 指導計画(3/4)

月 日	学習内容
11/8(金)	・東日本大震災のDVD「未来へ伝え、つなぐ」を視聴する。
18(月)	・資料「被災地で聞いたひとりひとりの物語」を読む。 ・自分の感想や意見をワークシートにまとめる。
25(月) 本時	・思いやりについて考える～資料から感じたことや意見を発表し合う～ ・これまで自分が受け取った「思いやり」について考える。
29(金)	・これからの生活でできる私たちの「思いやり」

5 本時の指導

① 本時の目標

- ・思いやりの言葉の意味や大切さを知ることができる。
- ・今までに経験した思いやりについて思い出し、ワークシートに記入することができる。

② 展開

時配	学習活動と内容	指導上の留意点	教材・教具
5分	○はじめのあいさつをする。 ○前回の授業を振り返り、本時の学習内容を知る。	・前回の授業のワークシートを振り返り、まとめた感想や意見を発表することを確認する。	・ワークシート
35分	○事例について振り返る。 ○一人ずつ自分の感想や意見を発表する。 ○「思いやり」の言葉の意味について知る。 ・事例から出たキーワードから思いやりの意味や大切さを知る。 ○これまで自分が受け取った「思いやり」について考える。 ・思いやり記録シートに記入する。 ・「だれから」「どんなこと」「どんな気持ちになった」の項目に沿って記入する。	・事例を思い出せるように、事前にイラストや場面をイメージできる画像を用意しておき、あらすじに沿ってスライドが流れるようにする。 ・緊張する状況でも発表できるように、事前に用意した発表原稿を見ながら発表してよいことを伝える。 ・生徒の感想の中からキーワードになる言葉を板書していく。 ・板書したキーワードに注目するようにし「思いやり」という言葉の意味をイメージしやすいようにする。 ・事例の中での他者を思いやっている場面について掲示物を使いながら気付けるようにする。 ・「受け取った思いやり」について思いつかない生徒には、家族や友達からしてもらって嬉しかったことなどを質問し、教師との会話の中から自分で見つけられるようにする。	・液晶テレビ ・ワークシート ・原稿 ・掲示物 ・思いやり記録シート
10分	○まとめ ・本時の感想を書く ○終わりのあいさつをする。	・文章でまとめることを苦手とする生徒は感じたことを率直に書けるよう言葉をかけ、気持ちをくみ取るようにする。 ・今後、学校生活のなかで相手の立場に立った言動、行動ができるように促す。	・感想シート

6 評価

- ・「思いやり」の意味や意義を理解することができたか。
- ・相手からの「思いやり」を思い出し、記入することができたか。

高等部3年C2グループ 国語科 学習指導案

1 単元名 思いやりの心

視 点 道徳の視点を入れた「国語科」の授業の試み
「思いやりの心」－江戸しぐさを題材にして－
※「道徳教育」に関する視点を下線で示す。

2 単元計画について

高等部3学年国語・数学C2グループは男子3名、女子4名の計7名で構成されているが、そのうち男子1名は長期欠席である。本グループの生徒は卒業後、一般就労する生徒と福祉的就労をする生徒がおり、全員小学校低学年程度の読み書きができる。作文を書いたり、質問に対して適切に話したりすることができる生徒もいるが、個別に言葉かけや手を添えるなどの支援をすることで授業に参加することができる生徒が多いグループである。教師や友達との関わりでは、他者とコミュニケーションをとることが好きな生徒が多く、休み時間には仲の良い友達や話しやすい教師と一緒に会話を楽しむ姿が見られる。しかし、自分の話したいことや興味があることをいきなり話し出す生徒や、苦手な活動や苦手な人に対して攻撃的な言動をとることが多い生徒、難聴のため相手の話す内容が聞き取りにくく言葉数が少ない生徒、選択性緘黙のため活動に参加することが難しく教師や友達に手をとってもらうことで授業に参加することができる生徒がいる。相手の立場に立って話をしたり、聞かれたことに答えたりすることが難しいために、一方的なやりとりになっていたり友達とトラブルになったりする生徒がいるグループである。

卒業を2ヶ月後に控え、今後社会で生活を送る生徒達にとって、豊かな人間関係を形成していくことは大切な要素である。自分の意見をどのように伝えればよいのか、自分が発信できる意志の伝え方はどのようなものがあるのかを考えたり、場や時に応じた言動をしたりすることが今後必要であると考えられる。そのためには、職場や施設、家族等、人間関係の深さに関わらず、相手の立場に立って考える思いやりの心とそれを実行する力を養っていくことが、欠かせない要素であろう。今後、より人間関係が広がっていく高等部3年生において、思いやりの心をもつことは、特に必要な力であると考えられる。

そこで本単元では、国語的な要素だけでなく道徳的な要素を取り入れた授業を行っていきいたいと考えている。本校高等部の道徳年間計画における目標は「卒業後の生活を意識し、周囲と協力しながら意欲的に活動することができる」である。さらに、国語科との関連においては「伝え合い、理解し合う心の育成をすること」を指導内容としている。そこで、国語科の授業の中に道徳的な要素を取り入れた授業として、本単元「思いやりの心」を設定した。思いやりの心をもって相手と接すること（道徳的要素）、聞かれたことに応答したり場や時に応じた適切な言動をしたりすること（国語的要素）ができるようにしていきたい。

本単元では、前半の「江戸しぐさって何？」と後半の「思いを伝えよう」で構成されている。「江戸しぐさって何？」では、「江戸しぐさ」がどのようなものなのかを知り、自分自身の生活と照らし合わせて考えられるように具体的な事例を挙げていく。知らない人とも平等に接する工夫や、他人に対する優しい行動を行ってきた江戸の人々のしぐさを学ぶことで、他人の立場に立った行動、思いやりについて考えてほしいと考えている。「思いを伝えよう」では、「江戸しぐさって何？」で学んだ思いやりの心を自分がどれだけ実践することができているのかを、振り返っていきいたい。また本単元では、言葉で伝えることが苦手な生徒のために、心の円グラフ（別添参照）を使い、自分の気持ちを表現することができるようにしていきたい。同時に、選択肢を複数用意することで、その中から自分や相手の気持ちに近いものや、物事の意味を選ぶことができるようにし、時と場に応じた言動について考えることができるようにしたい。

本単元を通して今後、友達や教師と関わる際に思いやりの心を意識して、残り少ない学校生活をより豊かなものにしてほしいと思っている。そして、一方的なコミュニケーションにならないよう、相手の言葉かけに応答したり相手のことを考えて自分の意志を伝えたりできるようになってほしいと考える。思いやりのある言動を行うことで、卒業後の生活がより豊かなものになってほしいと願っている。

3 単元の目標

○生徒

- ・他者を思いやる言動について考え、やってみようと思うことができる。
(道徳・主として他の人との関わりに関すること)
- ・自分の意志や思いを、相手の立場に立って考え、話すことができる。(国語)
- ・自分の意志や思いを、自分ができる方法で伝えることができる。(国語)

○指導者

- ・思いやりの事例や絵を具体的に示し、生徒にとって「思いやりの心」が身近なことでありと伝えることができる。
- ・生徒の実態に応じた意志や思いの伝え方ができるよう、支援することができる。

4 指導計画

(1) 国語・数学指導計画

	1学期	2学期	3学期
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の仕方 ・メモの取り方 ・パソコンで学級新聞作り ・お金の計算 ・宅急便で送る荷物の測り方 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを考える ・メモの取り方② ・ストレスを感じたとき ・割合と電卓の使い方 ・すごろく作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやる心(本単元) ・すごろく ・ワード、エクセルの使い方 ・お世話になった先生へのお礼状作り

(2) 単元計画(3時間扱い)

月日	時数	活動内容
1/20(月)	1/3 (本時)	・「江戸しぐさって何？」
21(火)	2/3	・「思いを伝えよう」
27(月)	3/3	↓

5 本時の指導

(1) 本時の目標

○生徒

- ・「江戸しぐさ」の内容を聞き取り、江戸時代から続く日本人の思いやりの心について知ることができる。
- ・「心の円グラフ」を使い、自分の気持ちを表現したり適切に説明したりすることができる。

○指導者

- ・「江戸しぐさ」の内容や状況を、生徒がわかるように説明することができる。
- ・「心の円グラフ」の使い方を伝え、生徒の表現方法の1つとして使えるよう支援することができる。

(2) 本時の展開

時配	学習内容と活動	指導・支援上の手立て	教材・教具
3	1 はじめの挨拶をする。 ・日直の号令で挨拶をする。	・姿勢を正してから挨拶ができているか確認する。	
10	2 「江戸しぐさ」とは何かを知る。	・本単元では、相手のことを考えた行動、思いやりのある伝え方について、みんなで考えていくことを伝える。	

<p>25</p>	<p>3 いろいろな「江戸しぐさ」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T 2 と TM で「傘かしげ」のロールプレイを行う。 ・ 「傘かしげ」を見て、思ったことを発表する。 ・ 「傘かしげ」を自分がしてもらおうとどのような気持ちになるのか、発表する。 ・ 「江戸しぐさ」をされなかったときと、してもらったときで、どのような気持ちの違いがあるのか「心の円グラフ」で表現する。 ・ 「うかつあやまり」と「おはようにおはよう」を見て、思ったことを発表する。してもらわなかったときの気持ちも発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手が挙がった生徒を順に指名する。 ・ A 生徒と B 生徒は、自分が思う江戸時代のイメージに近いものをプリントの中から選べるようにし、T 2 が代弁する。 ・ A 生徒がプリントから選ぶことが難しいようであれば T 1 が対応し、T 2 が他の生徒からの発言をまとめるようにする。 ・ 手が挙がらないときには答えやすいように「江戸の町ってどこにあった?」「江戸時代の人が着ていた服は何?」などの発問をする。 ・ 江戸の町は人口も多く、出身も職種も年齢も違う人が集ってできた町であること、トラブルを防ぐため、思いやりの心をもって他者と接する知恵をまとめたものが「江戸しぐさ」であることを説明する。 ・ C 生徒が不参加のときには、ロールプレイしてくれる生徒を募る。 ・ 「傘かしげ」をするものとししないものとの 2 例を行い、それぞれの場面の説明を口頭でする。 ・ 2 例を見て、なぜ江戸時代の人々が「傘かしげ」を行ったと思うのか聞く。 ・ 生徒の発言を板書し、発表した内容を思い返すことができるようにする。 ・ 2 つの気持ちが示す割合を「心の円グラフ」で示し、使い方の説明をする。 ・ 生徒がわかりやすいように、教師は「心の円グラフ」を使って自分の気持ちの割合について見本を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「江戸しぐさ」が相手のことを考えた行動（思いやり）であるということ、「江戸しぐさ」をすると相手も自分も嬉しい気持ちになるということを確認する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 状況が分かりやすいように「うかつあやまり」「おはようにおはよう」の絵を黒板に貼り、場面の説明をする。 ・ B 生徒には T 2 が個別にイラストの説明や次に行うことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリント ・ プリント ・ イラスト① ・ 傘 ・ 心の円グラフ ・ イラスト②③
-----------	--	--	--

2	<p>4 終わりの挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回行う内容について簡単に説明する。 ・日直の号令で挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A生徒とB生徒は、プリントを用意し、選択肢のなかから選ぶことができるようにする。また、自分の気持ちを表現できるよう「心の円グラフ」を使うようにもする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・相手だけでなく、自分も嬉しい気持ちになる（お互いに気持ちの良い伝え方について取りくむことを伝える。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正してから挨拶ができていないか確認する。 	
---	--	--	--

※四角枠は、本授業における道徳の視点からの指導・支援上の手だてである。

(3) 本時の評価

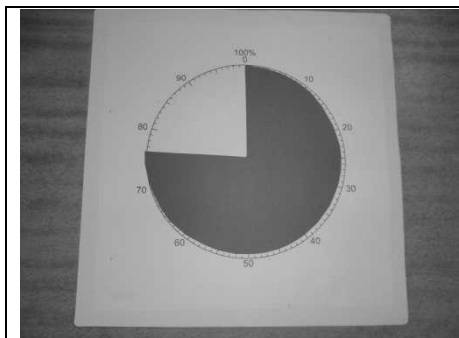
○生徒

- ・「江戸しぐさ」を聞き取り、江戸時代から続く日本人の思いやりの心について知ることができたか。
- ・「心の円グラフ」を使い、自分の気持ちを表現することができたか。

○指導者

- ・「江戸しぐさ」の内容や状況を、生徒がわかるように説明することができたか。
- ・「心の円グラフ」の使い方を伝え、生徒の表現方法の1つとして使えるよう支援することができたか。

(資料) 心の円グラフ



- ・2割、70%など「割合」の勉強をしたときに使用した円グラフ。
- ・1%単位で割合について理解している生徒は3名。他の生徒は50%（半分）を基準としたときの割合の大小についてはわかっていない。
- ・本時では、「赤は嬉しい気持ち」、「その他の部分は悲しい気持ち」のように、自分の気持ちの示す割合を円グラフで表現する。

《協議会から》

- ・国語の授業で取り組むよりも、道徳として取り組んだ方が良かったのではないかと。授業を展開していくなかで、目標やねらいに曖昧な部分があったように思う。
- ・どの教科でも必ず道徳的な要素があり、どこにねらいをもって授業をするかが大切ではないか。
- ・心の円グラフがあることで、発語の少ない生徒の表出の幅が広がったように感じた。
- ・ロールプレイを行ったことで、江戸しぐさを生徒にわかりやすく伝えることができたのではないかと。
- ・道徳は、自ら気づくことが大切。生徒が道徳的な観点に気づくきっかけになれば良いと思う。
- ・道徳の題材をどう選んでいくか、また、知的障害の特別支援学校の道徳をどう考えていくか課題である。

高等部1年 職業科 Aグループ 学習指導案

1 題材名 職場で他の人と一緒に働くためのスキルを学ぼう！

道徳の学習項目「かけがえのない自分—自己を確立する」

- 1－(2) 希望・勇気、強い意志 1－(3) 自律、自主、誠実・責任
「支え合う喜び—他者に対する敬愛と助け合いの精神をもち実践する」
2－(3) 友情・信頼 2－(5) 寛容・謙虚

2 題材の設定理由

本グループは男子3名、女子4名の合計7名で構成されている。「前期実習」を通して、報告・連絡・相談の仕方や友達や教師と協力して仕事をやり遂げることなど、仕事を進めるには「他者と協力して取り組む」ことが必要なことを知る機会になった。「後期実習」では、初めてかかわる教師や実習先の方から、職場で求められるあいさつや言葉遣いなど、働くために必要なビジネスマナーについて実際に指導を受けたことで、今まで以上に働くことについて考えられるようになってきた。しかし、生徒が自分ではできていると思っていたことに相手から指導を受け混乱したり、指導を受けたことを理解できなかつたりした部分があった。このことから、「自分を客観的に捉える」ことを学習することが必要ではないかと考えた。

本題材は、実習など生徒たちのこれまでの経験を生かし、「他者と協力して取り組む」、「自分を客観的に捉える」ことをねらいとして取り組みたい。

「他者と協力して取り組む」力を学習するために、SST（ソーシャルスキルトレーニング）の方法を取り入れた課題解決に取り組む。自分の意見を伝えることや相手の意見を聞くこと、友達に合わせることをねらいとし、ソーシャルスキルの中の社会的行動スキルの活動を展開する。これらは、「学習指導要領・職業科」の目標である「他者と協力して取り組む力」を育むと考えられる。

「自分を客観的に捉える」力を学習するために、生徒たちのビジネスマナーの実践を映像で記録し、それを見て自己評価・他者評価を行うことにした。ビジネスマナーの実践内容は「目上の方との接し方」で、校長室などに書類を渡しに行ったり、正しい言葉や態度で話したり、伝言を預かっていたりするなどである。評価は「適切な態度（姿勢）でやりとりができたか」「正しい言葉遣いでやりとりができたか」「身だしなみが整えられていたか」の3項目にしばり、自己評価・他者評価・相互評価を行う。生徒たちが自分の良いところに気付いたり、より良くなるためにはどうしたら良いかを考えたりする機会になることを願っている。

3 題材の目標

- 友達や教師と協力してソーシャルスキルを学ぶことができる。
- 他者と一緒に働いたり、生活したりするためのビジネスマナーについて知り、言葉遣いや態度、姿勢、身だしなみの基本的なビジネスマナーを学ぶことができる。
- 自分の行動を振り返ったり、他者からの評価を聞いたりして、自分を客観的に捉えることができる。

4 指導計画

(1) 計画を立てるにあたって

○社会性を育てることについて

- ・SSTの取り組みでは、ルール（生徒たちが話し合って決めたもの）を守ることができるように掲示物を掲示し、活動の前に全員で確認する。
- ・SSTの取り組みでは、友達や教師と協力し合うことに気付けるように、相手に受け入れられるような言葉遣いや態度を示したモデリングをする。
- ・ビジネスマナーの学習では、基本的なビジネスマナーについて学ぶことができるように、教師

や友達の行動（映像）を見て、自分の意見を发表或し、他者の意見を聞いたりする。

- ・ビジネスマナーの学習では、自分を客観的に捉えることができるように、自分の行動（映像）を見て自己評価をしたり、友達や教師からの評価と比べたり（相互評価）する。
- ・友達のことを評価し、自分の意見を発表する際は、相手の気持ちを傷つけないような伝え方を考えてから発表するように伝える。

○環境を整えることについて

- ・SSTのルールやスクリプトなどの情報を全員で共有できるように、ワークシートや掲示物、映像を用いて視覚的に示す。
- ・ビジネスマナーの学習では、自分のことや他者のことを評価しやすいように、映像で振り返る。
- ・ビジネスマナーの学習では、相手を意識することができるように、お互いの表情が見える位置に机を配置する。

(2) 指導計画 (本時 5. 6時間/8時間)

日にち	題材名	活動内容
12月19日(水)	○SST 「協力福笑い」 ○職場で他の人と一緒に働くためのスキルを学ぼう！ 「目上の方との接し方～書類の渡し方、言葉遣いや態度～」	・チーム対抗の福笑い。目隠しをした生徒に、同じチームのナビゲーターが上手に指示を出すことで、顔のパーツを上手く配置できるようにする。 ・校長室などに行き、書類を渡す。 ①ワークシートに「失礼します」など自分で考えた言葉を記入する。 ②校長室・他クラスに行き、書類を渡す。(ビデオ撮影)
1月9日(水)	○SST 「順番に並んでみよう」 ○職場で他の人と一緒に働くためのスキルを学ぼう！ 「相互評価をしよう～基本的なビジネスマナー～」	・番号などの書かれたくじを引いて、順番に並ぶ。 ・実践を映像で振り返り、相互評価を行う。 ・気付いたことを发表或し、友達の意見を聞いたりすることで基本的なビジネスマナーを学習する。
1月16日(水) (本時)	○SST 「番号順に並んでみよう」 ○職場で他の人と一緒に働くためのスキルを学ぼう！ 「相互評価をしよう～基本的なビジネスマナー～」	・番号などの書かれたくじを引いて、順番に並ぶ。 ・実践を映像で振り返り、相互評価を行う。 ・気付いたことを发表或し、友達の意見を聞いたりすることで基本的なビジネスマナーを学習する。
1月23日(水)	○SST 「助けてレスキュー」 ○職場で他の人と一緒に働くためのスキルを学ぼう！ 「目上の方との接し方～書類の渡し方、言葉遣いや態度～」	・頭にお手玉をのせて、時間内(2分)歩き続ける。お手玉を落としてしまった時は、レスキュー役の友達に助けを求めて拾ってもらう。 ・校長室などに行き、書類を渡す。 ①ワークシートに「失礼します」など自分で考えた言葉を記入する。 ②校長室・他クラスに行き、書類を渡す。(ビデオ撮影) ③映像を視聴する。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- 意見を聞いたり伝えたりすることで、友達と協力してSSTに取り組むことができる。
- 友達の行動（映像）を見て評価をし、ワークシートに記入したり、意見を発表したり聞いたりすることができる。
- 自分の行動（映像）を見て自己評価をしたり、友達や教師からの他者評価と比べたりして、自分を客観的に捉えることができる。

(2) 本時の展開

時配	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
1	○始めのあいさつをする。	・全員の姿勢が整っているかを確認してから、号令をかけるように促す。(T1)	
5	○今日の活動を知る。	・良い姿勢を意識できるように手本を示す。 ・活動に見通しがもてるように、黒板に活動を書いておく。(T1)	黒板 チョーク
15	<p><ソーシャルスキルトレーニング></p> <p>○「番号順に並んでみよう！」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSTの準備をする。 ・SSTのルールと内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示が分かるように教師が見える位置に座るように促す。 ・ルールを共有できるように、ルールを書いた掲示物を黒板に張り、全員で読むように促す。 ・SSTの内容が分かるように、モデリングをしたり、掲示物で説明したりする。 ・興味をもってSSTに取り組めるように、カードの質を良くしたり、絵をカラーにしたりする。 ・生徒同士で課題解決に取り組めるように、見守る。 ・参加が難しい生徒がいた場合は、本人の気持ちを考えながら受容的に対応し、参加できるように促す。 ・その場にふさわしい言葉遣いや態度が見られた時には、賞讃する。ふさわしくない時(動揺期)は、気持ちを切り替えられるような言葉をかけたり、場所を変えてクールダウンしたりするように促す。 ・ふさわしい態度でSSTを進められたかを振り返るために、掲示したルールを見ながら確認する。 ・生徒同士で評価を共感しあえるように、生徒の言葉を復唱したり、伝わりやすい言葉に言い換えたりする。(T1) 	<p>掲示物(ルール)</p> <p>掲示物(SST)</p> <p>カード</p> <p>カードを入れる箱</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1. 箱から1人1枚カードを取り出す。</p> <p>※カードには西暦、干支などが書かれている。</p> <p>2. カードを見せ合う。</p> <p>3. 順番に並ぶ。</p> </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・SSTを振り返り、良かった点を発表する。 ・片付けをする。 		
58	<p><ビジネスマナー></p> <p>○自分の実践を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の内容を知る。 1. 映像(教師の実践)を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてるように、映像を見ることやワークシートを記入すること、相互評価することなどを伝える。(T1) 	ビデオ テレビ パソコン

<p>2. 映像（生徒の実践）を見る。 3. ワークシートを記入する。 4. 相互評価をする。</p> <p>・映像（手本）を見る。</p> <p>・映像（生徒の実践）を見る。</p> <p>・ワークシートを記入する。</p> <p>評価のポイントは3項目 「言葉遣い」・「態度」・「服装」</p> <p>・各項目につき、評価は3つ。 できていたと思うことに○をつける。</p> <p>・「声の大きさが良かった」「目を見ていなかった」など、気付いた点はワークシートのメモに記入する。</p> <p>・相互評価をする。</p> <p>1. 評価表を教師に渡す。 2. 相互評価を見る。 3. 意見・感想を発表する。 3. 校長先生や他クラスの先生からの評価を聞く。 4. 本人の感想や考えなどを発表する。</p> <p>1 0 ○まとめをする。 ・学習したことや感想などを発表する。</p> <p>1 ○終わりのあいさつをする。</p>	<p>・雰囲気を和らげるために、悪い例を紹介し、意見を発表しやすいようにする。</p> <p>・評価するポイントが分かるように、映像にテロップを入れておいたり、途中で停止して説明を加えたりする。</p> <p>・評価するポイントが分かるように、映像を見る前にワークシートを配付し、評価のつけ方の説明をする。（T 1）</p> <p>・ワークシートの書き方などで戸惑っている生徒には記入例を示すなどして、個々に対応する。</p> <p>・自己評価などを記入することに抵抗を示す生徒がいた場合は、その理由を聞き、できる範囲で記入できるように促したり、側で見守ったりする。</p> <p>・全員で評価を共有しあえるように、評価表（4つ切り）を黒板に掲示しておく。</p> <p>・生徒同士で良いかわりが見られた時に、賞讃する。</p> <p>・他者からの評価に嫌悪を示した場合は、その気持ちを汲み取りつつ、前向きに相手の意見を捉えることができるように教師が言い換えて伝える。</p> <p>・ふさわしくない伝え方があった場合には、相手に受け入れてもらえるような言い方で、再度伝えられるように手本を示したり、促したりする。</p> <p>・本人の感想などで、基本的なビジネスマナーに関することや今後の目標などの発言があった場合は、賞讃したり、繰り返し伝えたりする。</p> <p>・今日の授業で学習したことや感じたことを全員で共有できるように、生徒に質問したり、発表を促したりする。（T 1）</p> <p>・見通しがもてるように、次週の授業内容を伝える。（T 1）</p> <p>・全員の姿勢が整っているかを確認してから、号令をかけるように促す。（T 1）</p> <p>・良い姿勢が意識できるように手本を示す。</p>	<p>筆記用具 ワークシート 罫線のある紙 評価表（黒板掲示用） 磁石 マジックペン</p>
---	---	--

(3) 評価

- ・意見を聞いたり伝えたりすることで、友達と協力してS S Tに取り組むことができたか。
- ・友達の行動（映像）を見て評価をし、ワークシートに記入したり、意見を発表したり聞いたりすることができたか。
- ・自分の行動（映像）を見て自己評価をしたり、友達や教師からの評価と比べたりして、自分を客観的に捉えることができたか。

高等部 1 年 道徳学習指導略案

1 題材について

○題材名 「お金の使い方を考えよう」

○道徳の内容との関連

- ・ 1－(2) 主として自分自身に関すること（望ましい生活習慣、節度、節制）

○題材について

本題材は、おこづかいとしてもらったお金をどのような使い道をするのが良いかを、自作資料を用いて考える。本学級の生徒は、高等部Cコースの3名の女子生徒で構成されている。自分の思いを言葉にして伝えることを得意とする生徒もいれば、うまく伝えられない生徒もいる。3名という少人数で生活をしていることもあり、お互いに協力し合って生活をしている。分からないことや困っていることはお互いに助け合う姿が徐々にみられるようになってきている。

お金の使い方では、保護者からは、「おこづかいをすぐに使ってしまう」や「買い物を頼むと、渡したお金を全て使ってしまう」などが上がっている。

高等部での生活も折り返しを迎え、そろそろ卒業後の生活を考え初める時期である。就職し、苦労して得たお金は、自分のために大切に使って欲しいと願っている。

そこで、自作資料等を参考にして、主人公のお金の使い方を考えることから、自分のお金の使い方を振り返り、今後の生活に生かしてほしいと考えている。

○本時のねらい

- ・ お金の使い方について考えることができる。
- ・ お金の大切さに気づき、よりよい生活をしようとする気持ちをもてる。

2 展開

時配	生徒の活動	支援上の留意点	備考
14:35 ～ 14:40	○あいさつをする。 ○おこづかいの使い方を考え、発表する。	○「もし、今千円おこづかいとしてもらったら何に使いたいか」を生徒に質問をする。 ○多くの使い道が考えられるよう、自由に発言できる雰囲気をつくる。	
14:40 ～ 15:10	○資料「おこづかい」を読んでお金の使い方について考える。 ○お金がない友達に対して自分のおこづかいで、おごってしまった主人公に対して、本当はどのような対応をすれば良いかを、仲間と一緒に話し合う。	○貰ったばかりのおこづかいを、一度に全部使うことに対して、どう思うかを聞く。 ○生徒同士の話し合いが活発になるように生徒から出た意見は、板書で残しておく。 ○お金がなく、自分の欲求を抑えた友人の心情を考えられるような問いかけをする。 ○生徒同士の話し合いが活発になるように生徒から出た意見は、板書で残しておく。	○資料 プリント
15:10 ～ 15:18	○自分の今までのお金の使い方について、大切に使用したこと、使えなかったことの経験を話し合う。 ○どのようなお金の使い方が上手な使い方なのかを考え、意見を出し合う。	○今までのおこづかいの使い方が、どうだったかを、一人一人に合わせて聞きとるようにする。 ○資料での使い方と生徒から出た意見の違いが分かるような説明を加える。一度に使ってしまうことがないように、こづかい帳などを例に出して説明する。	
15:18 ～ 15:20	○まとめをする。	○生徒から出た意見を基に、金銭にかかわる道徳的価値のまとめをする。	

高等部 1 学年 道徳学習指導略案

1 主題名 「新たな自分、発見！！」

2 ねらい

行事を通して仲間との交流から見えてくる自分自身を知り、人から見た自分自身のよさを感じとり、自分のよさについて考える機会とし、「かけがえのない自分～自己を確立する」につなげていきたい。

3 主題設定の理由

入学して半年が過ぎ、仲間との交流が自然な形でできるようになってきた。11月に校外学習（東京スカイツリー方面に現地集合）に行き、クラス別（8人）で行動した。半日以上クラスの仲間と行動し、お互いの知らなかった一面や仲間のよさに触れ、絆を深める機会となった。

グループ学習を終えて、仲間とのコミュニケーションの中で、仲間の新たな発見や自分が気付かなかった自分の意外な一面などを仲間からの気付きで知ってもらいたい。振り返りの中で「人から見た自分のよい所」を感じてもらいたいと思い本主題を設定した。

4 本時の学習

- (1) 題材 「校外学習を通して、仲間の姿から、お互いのよさについて感じよう。」
- (2) 目標 仲間から見た自分のよさを知る。
- (3) 展開

時配	学習内容と活動	支援	資料他
導入 5	○あいさつ。 ○校外学習を終えて、自分のよかった所やよさをワークシートに書く。	・姿勢等見て、必要に応じて声かけをする。 ・何人かに聞く。	ワークシート
10	○校外学習で感じたことをうたにしてみよう。 五七五や五七七七七に表してみる。 例題で・・・ 教師が作ったうたを聞く。	・俳句でも短歌でもよい。 ・何も出なかったら教師が見本を示す。雰囲気や和らげるために生徒の言動などを内容に盛り込むようにする。 ・何人かに聞く。	ワークシート
15	○友達のうたを聞いて感想を発表する。 ○仲間の新発見について無記名で書いてみよう。 例:びっくりしたこと、いいなと思ったこと。 うらやましいなと思ったこと。友だちの意外な一面。	・一人の生徒が書くのは4人。 あらかじめ、名前を入れておいたものを配る。(書いてもらえない生徒を出さないため。)	
5	○教師が、一人に一つよい所を発表して、皆に伝える。	・無記名で記入するので、正直な感想を導き出す。 ・教師が集めてまとめる、4人から出た意見から一人のコメントを読む。	
5	○自分にあるいろいろな面を感じる。人から見た「自分のよい所」を書く。		
終末	ワークシートの回収 あいさつ		

【ワークシート】

道 徳 **1年 組 氏名**

「新たな自分、発見！！」

1. 自分のよさは、どんな所だろう。

2. 感じたことをうたにしてみよう（五七五や五七五七七で）。

3. 友達から見た自分。（友達が紙に書いてくれた内容）

まとめ

※新たな自分発見！！

・ 仲間からみた自分のよい所は



★夏休み前、本校高等部3年生は「学年の時間」に生徒40名を下記のように3グループに分けて、性指導を実施する。

- A グループ・・・「異性とのかかわり方」
- B グループ・・・「プライベートゾーンと大人としてのマナー」
- C グループ・・・「身の回りを清潔にしよう」

高等部3年 Aグループ 道徳 学習指導案

- 1 主題 異性との付き合い方（男女交際）について
- 2 ねらい 異性への関心、異性に対する好ましい関わり方について理解する。
- 3 展開

時配	学習内容	支援者の働きかけと留意点	資料
導入	<前時の学習を振り返る>	<前時の学習を振り返る>	
	発問①：異性を好きになったことはありますか。 Or 異性とはなんですか。 <input type="checkbox"/> 異性とは自分とは異なる性である。 <input type="checkbox"/> 異性が気になる、好きになることは自然なことである。	<input type="checkbox"/> 異性とは自分と異なる性のことを言う。 女子にとっては男子、男子にとっては女子が異性。 <input type="checkbox"/> 異性への関心が出てくることは人間として当たり前で、自然な気持ちである。お腹が空いた、眠たいという気持ちと同じ。	
展開①	<本時の学習内容を知る>	<本時の学習内容を伝える>	
	発問①：異性と付き合うってどういうこと。（彼氏、彼女になるってどういうこと？） <input type="checkbox"/> ワークシートの中から3つ選び、挙手する。	<input type="checkbox"/> ワークシートの中から3つ選んでもらう。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に勉強したり、出かけたりする ・電話やメールのやりとりをする ・キスする ・身体に触れる ・手をつないで歩く ・お互いの家を行き来する ・好きだと伝える ・友人や家族に紹介する ・プレゼントを交換する ・相手のことを大切にすること </div> <input type="checkbox"/> 10個のカップルがあったら、つきあい方は10通り。好きな人とたくさんお話して、一緒に時間を過ごして、少しずつ相手のことを知っていき、お互いを大切にすること。誰かとお付き合いすることはとっても素敵なことであることを伝える。	
展開②	<男女交際のルールを知る> <input type="checkbox"/> 異性と付き合うのにはルールがあることを知る。	<input type="checkbox"/> 異性と付き合うのにはルールがあることを伝える。	男女交際のルール
	<div style="border: 1px dotted black; padding: 2px;"> <p>【揭示】男女交際のルール（仮）</p> <p>① 相手の嫌がることは絶対にしない。</p> <p>② 「いやだ」という勇気を持つ。</p> <p>③ 相手のことを考えて、大切にすること。</p> </div>	<input type="checkbox"/> 相手の嫌がることは絶対にしない。 相手の同意がないのに、身体に近づいたり触ったりする（抱きつく）、しつこく電話やメール、手紙を送りつける、後を追いかける、キスをする、などの行為は犯罪になる。 <input type="checkbox"/> 「いやだ」という勇気を持つ。 自分が嫌だと思ったら、「いや」と言う。相手に嫌われるのでは、と思うのは間違い。 <input type="checkbox"/> 相手のことを考えて、大切にすること。	
展開③	<社会における性を知る>	<input type="checkbox"/> 好き同士であれば、相手の同意があれば、何をしてもいいのか考える。 例）バスや電車の中でキスをする、抱き合う。 →周りの人がそれを見て嫌な気持ちになる。 ・性行為	
	<input type="checkbox"/> 安易な性行為は相手も周囲も苦しめることになることを理解する。	<input type="checkbox"/> 安易に性行為をして妊娠した場合、子どもを育てることができるのか。高校生は社会的に未熟であるために中絶（赤ちゃんを殺す）することになる。自分と相手が良ければそれでいいのか。好きな人を大切にすることはどういうことかを考える。	
まとめ	<本時の学習を振り返る>	<本時の学習を振り返る> <input type="checkbox"/> 今日学習した要点を振り返る。	

高等部3年 Bグループ 道徳学習指導略案

1 主題 プライベートゾーンと大人のマナーを知る

2 ねらい 子どもから大人になってきたことを認識し、大人としてのマナーを知る。

3 展開

時配	学習内容と生徒の動き	指導上の留意点	資料
導入	<本時の学習内容を知る>	<本時の学習内容を説明する>	
	<p>発問①：高校生は大人か子どもか。</p> <p>○大人か子どもか、自分の考えを発表する。</p>	<p>○子どもを何人か当てて、考えとその理由を聞く。</p> <p>○社会的に大人とみられている事例を挙げ、考えを聞く。 例) バスや電車の料金、入場料など</p>	
展開①	<自分の身体が大人になってきたことを知る>	<p>【掲示：男女の絵】</p> <p>○大人と子どもの身体の違いを絵で訪ね、生徒の身体に大人の特徴がないか一緒に確認する。 例：ひげ、すね毛、のどぼとけ、胸など</p> <p>【板書：高校生＝大人】</p>	男女の絵（服を脱いでいくもの）
展開②	<大人の行動を考え発表する>	<p>○質問①～の内容を職員が実演し、身近なものとしてとらえられるようにする。</p> <p>○できるだけたくさんの生徒に質問する。</p> <p>【掲示①～⑤】【板書：答えの×と○】</p>	<p>掲示物①</p> <p>掲示物②</p> <p>掲示物③</p> <p>掲示物④</p> <p>掲示物⑤</p>
	質問①：大人は、お母さんと、手をつないでもいいのかな。 答え：×	○生徒の意見を聞く。 ○お母さんの下に、先生、友達を貼る。 例外) 人混みの中	
	質問②：大人は、お母さんに、ベタベタくっついてもいいのかな。 答え：×	○生徒に意見を聞く。 ○お母さんの下に、先生、友達、異性を貼る。	
	質問③：大人は、異性の肩を組んでもいいのかな。 答え：×	○生徒の意見を聞く。	
	質問④：大人は、異性の名前を呼び捨てにしてもいいのかな。 答え：×	○生徒の意見を聞く。	
	質問⑤：大人は、異性の友達とお話してもいいのかな。 答え：○	○生徒の意見を聞く。 ○普通の距離で話す分にはよいが、腕を伸ばし	

		た範囲内で話すのはいけないことを伝える。	
展開 ③	<プライベートゾーンについて 知り、言動を考える>	<p>○場面転換を図る。</p> <p>○お風呂では服を脱ぐことを確認し、人形の服をとり、下着にする。</p> <p>【掲示：プライベートゾーン】</p> <p>○下着で隠されている部分がプライベートゾーンだと伝える。下着は、みんなの大切な女性器、男性器を守るために付けている。そこはプライベートゾーンといい、みんなに見せたり触らせたりしてはいけない大切なところ。だから水着や下着で隠している。</p> <p>【掲示：男女の絵に下着をつける】</p> <p>○いくら好きな人でも、簡単に触らせてはいけない。</p> <p>○知らない人が触りそうになったら、大きな声を出したり、けっとぼしたり、かみついたりしてもいいから逃げる。</p> <p>○他の人のプライベートゾーンを触ったり見た</p>	男女の絵
	質問⑥：プライベートゾーンの名前を大きな声で言ってもいいのかな。 答え：×	<p>【掲示：バスの中で大きな声でエッチな話】</p> <p>○バスなどの中で大きな声で「おっばい」という絵を見せて、周りの人がいやな気分になることを確認する。</p>	バス大声の絵
	質問⑦：ズボンの中に手を入れてもいいのかな。 答え：×	<p>【掲示：ズボンに手】</p> <p>【掲示：尿】</p> <p>○男女ともに放尿の線を絵にあてがい、その後尿が少し残り、ばい菌が増えることを伝える。</p> <p>【掲示：きれいな手、ばい菌の手】</p> <p>○きれいな手でプライベートゾーンを触ると、ばい菌の手になることを知らせる。</p> <p>○ズボンに手を入れないことを確認する。</p>	
	まとめ	<本時の学習内容を復習する>	○質問事項を復習し、マナーを守って行動するように伝える。

高等部3年 Cグループ 道徳学習指導略案

- 1 主題 身のまわりを清潔にしよう
- 2 ねらい 身体の清潔方法を身につけ、身だしなみについて知ってほしい。
- 3 展開

時配	学習内容	指導上の留意点	資料
導入	<p><本時の学習内容を知る></p> <p>○身体を清潔にしているか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お風呂は毎日入っているか ・顔は毎日洗っているか ・歯磨きは1日何回しているか。 	<p><生徒の清潔習慣の実態を知る></p> <p>○家での様子をきいてみる。</p>	
展開①	<p><なぜ身体を清潔にしなければならないのかを知る></p>	<p>○身体をきれいにしていないと、どんな悪いことがあるかを確認する。清潔な絵を不潔な絵を見比べてみる。</p>	絵図
展開②	<p><清潔方法を知る></p> <p>○実際にきちんとできるかやってみる。</p> <p>①風呂の入り方</p> <p>②髪のとかし方</p>	<p>○資料にそって順番に洗う動作を支援する。</p>	資料 タオル くし 手鏡
展開③	<p><良い身だしなみについて知る></p> <p>○身だしなみの良い先生と悪い先生を見比べる。</p>	<p>○教師が良い例と悪い例を見せ、理解をしやすくする。</p> <p>例) 髪がぼさぼさ シャツをズボンから出す。 ボタンが外れている。</p>	
まとめ	<p><本時の学習内容を振り返る></p>	<p>○身体をきれいにすることと、身だしなみを整えることは大事であることを話す。</p>	